

令和6年度 茨城県第4採択地区第2回教科用図書選定協議会議事録

- 1 日 時 令和6年7月12日（金） 午前10時00分～
- 2 会 場 コミュニティセンター城里 3階 大会議室
- 3 内 容

<事務局>

それでは定刻前ではございますが、皆様おそろいですので、始めさせていただきます。要項に従いまして進めさせていただきますが、会に先立ちまして、本日の進め方について確認させていただきます。

本日の第2回選定協議会につきましては、中学校用教科用図書、特別支援学級用教科用図書の審議を行います。お手元には、中学校用教科用図書の各教科の調査報告書をまとめて置かせていただいております。各教科の審議が終了しましたら、後ほど配布されます採択理由書の案と一緒に席の隣にあります協議済み書類入れという箱に入れて下さい。また、机の前に教科書が並んでますが、限られた部数になってますのでお二方でワンセットになっておりますので、協力して教科書を見ていただければと存じます。その後、諸連絡を行います。日程表の方で確認いただければと思います。なお、大洗町の長谷川教育長は午後からの出席となります。茨城町の坂場委員は本日欠席ですが、それぞれ委任状をいただいておりますことをご報告いたします。

それでは、「開会のことば」を本選定協議会副会長 笠間市教育委員会教育長 小沼公道 様お願いいたします。

（笠間市教育委員会 小沼教育長）

～開会のことば～

<事務局>

ありがとうございました。

つづきまして、「教科用図書選定協議会会長あいさつ」 添田 智 会長お願いいたします。

<会長>

本日は、令和6年度 茨城県第4採択地区第2回教科用図書選定協議会の開催に当たりまして、委員の皆様には、お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

始めに、調査委員の先生方による、調査部会の開催状況につきまして、簡単に報告をさせていただきます。6月25日に、12の教科・領域の調査委員、44名全員にご出席をいただき、第1回目の調査部会を開催いたしました。その後、6月26日から6月28日の間に、教科・領域ごとに日にちを決めて、1日から3日、調査部会を開催していただきました。部長さんを中心に、実に熱心に、慎重に、調査・研究を進めていただき、結果を資料にまとめていただきました。

本日は、この後、各教科・領域ごとに、順に、各部長より、調査報告をいただき、委員の皆様には、質疑や審議、議決、採択理由書の検討をしていただきます。たいへん長時間に亘りますが、慎重なる協議のほどを、心よりお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

ありがとうございました。それでは採択についての審議・議決に移ります。

採択についての審議については、本選定協議会規約第9条によりまして、議事の進行は会長が行うこととなっております。添田会長、よろしくお願いいたします。

<会長>

それでは議事に入ります。議事の進め方ですが、教科ごとに審議及び議決をしていきます。

教科の順番は、保健体育、国語・書写、社会、数学、理科、音楽、美術、技術・家庭、英語、道徳、特別支援教育の順で行います。

各教科の議決までの流れですが、①調査部会からの報告、②調査部会への質疑、③審議・議決、④採択理由書の検討のように進めてまいります。

それでは、はじめに保健体育調査部会からの報告をいただきたいと思います。

保健体育部長入室

<会長>

それでは、保健体育部会の報告をお願いします。

<保健体育部長>

中学校保健体育部会での調査内容について報告させていただきます。

保健体育部会では、東京書籍、大日本図書、大修館、学研の4つの教科用図書について調査しました。その結果をまとめたものがお手元の資料になります。

その資料をもとに、各教科書の特徴について簡単にご報告させていただきます。

最初に「東京書籍」です。

1時間の授業構成が6段階になっており、主体的・対話的で深い学びとするためにわかりやすく構成されています。

教科書とデジタルコンテンツがQRコードでリンクしており、タブレット等を活用した授業を進行することができ、深い学びへとつなげられます。また、他教科の学習内容ともリンクしており、横断的・発展的な学習が展開できます。デジタルコンテンツが豊富で、150のコンテンツが

教科書に盛り込まれておりました。学習内容の理解がより深まるようになっていることも特徴の一つです。

次に「大日本図書」です。

この教科書は、全ての単元において、左ページに本文の内容、右ページに図や資料に分けて掲載されており、授業に活用しやすい工夫がされています。「やってみよう」「話し合ってみよう」「活用して深めよう」と授業の中心となる活動が具体的に示され、主体的・対話的で深い学びの学習につながる内容となっています。また、図やイラストを多く使用し、興味・関心を高めたり、知識を深められたりする工夫が見られます。

続いて「大修館」です。

この教科書は、「つかむ」「身に付ける・考える」「まとめる・振り返る」の3段階の学習過程で構成されており、単元のまとめでは、観点別に確認問題を設定し、主体的な学習を促したり、評価につなげやすくしたりするなど工夫されています。

また、各単元において、導入の発問「課題をつかむ」では、簡単な設問からテーマに導入できるように工夫されています。学習のまとめでは、意見交換ができるような工夫が見られ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた内容となっています。

最後に「学研」です。

この教科書は、1時間の時間の授業構成が4つの流れで構成されており、どの段階でも協働的な話し合い活動ができるように促しています。各章末には「探究しようよ」が掲載されており、学んだことから興味関心を高め、さらに深い学びへと発展させられるように工夫されています。

ユニバーサルデザインフォントでは、デジタル教科書対応を採用しておりまして、また、太字ゴシックの重要キーワードがより目立つように工夫されています。さらに、学年ごとに主となって使う色が分かれており、各ページ同系色でまとめるなど色覚の特性に配慮したり、使用する色数を制限したりと見やすく工夫されています。とてもバランスの良い構成となっています。

これらの調査結果をもとに、保健体育部会では、「学研」が適切であると評価いたします。以上で報告を終了させていただきます。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

「学研」は授業構成が4つ。「東京書籍」は授業構成が6つと差がありますが、その点は調査の中でどのような意見がでましたか。

<保健体育調査部長>

あまり細かくしてしまうと、勉強の内容自体が分散してしまうということで、まとまり感を考えたときに4つというものが非常に適正であったということでした。

<委員>

はい、わかりました。

<委員>

今の教育の中で、がん教育と感染症教育という点で、重点を置いて保健体育を進めていくと思うんですが、4社を見たときにやはり「学研」が優れていたという部分もありますか。

<保健体育調査部長>

がん教育につきましては、他の教科とのリンクであったり、あるいは、自衛といったところへの、今回たくさんは入っていなかったんですけども、興味を持たせることであったり、教科書の中でも、意外にがん教育となると、生々しい写真が入ってしまったりとなるんですが、若干トーンを落として、子どもたちにとって、ワッと目を避けてしまうよりは、どういう風なのかなってということで、より入りやすい表示をしていると感じております。

<委員>

そうすると4社の中でも、「学研」の教科書の方が、そちらの方も充実していたということでよろしいですか。

<保健体育調査部長>

はい。

<委員>

今、話題になっていると思うんですが、性の多様性LGBTということで、「大修館」は2ページ割いているということだったんですけど、「学研」はそういう対応・配慮は、どの程度あるんでしょうか。

<保健体育調査部長>

特に大きく取り上げるということはありませんでしたが、随所にそういう風なところを気を使っているなという表記はございましたので、全く無視をしている感じはないかなと捉えております。

<委員>

小学校の方が、「東京書籍」。小学校と中学校と系統的な指導をする上で、特に会社が変わっても問題がないのかどうか。

<保健体育調査部長>

実際の学習指導要領的な内容としては、この4社ともきちんと盛り込まれておりますので、小学校の教科書についても、どの会社が出てきても同じような内容で取り扱っているものを、引き続き指導内容としては取り扱うことになりますので、特段の問題は無いかと思っております。

<会長>

他にどうでしょうか。

では、他にないようですので、質疑を終了します。

調査部長さん、大変ありがとうございました。

保健体育部長退室

<会長>

それでは、ただいまより審議をいたします。何かご意見のある方は挙手をお願いいたします。

「学研」ということでした。前回は「学研」ですね。

いかがですか。

特にございませんね。なければ報告のとおり決定してよろしいですね。

<委員>

異議なし

<会長>

次に、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

こちらは調査報告書を元に事前に調査部会で作成したものでありますが、何かご意見はありますか。

<委員>

丸の4項目目ですが、1時間の時間の授業構成という部分が、1単位時間の授業構成に直した

方がいいのかなど。1 時間の時間の授業構成が、1 単位のことを言っているんですよね。

<会長>

1 単位時間の授業構成に訂正するということですね。

<委員>

会社名なんですけど、ローマ字表記。会社名が変更になったんですか。以前は漢字でしたよね。

<事務局>

義務教育課から提供された資料によりますと、学研は漢字で表記されています。

<会長>

よろしいですか。他いかがでしょうか。

<委員>

なければ、採択理由書はこれで決定いたします。

1 単位時間の訂正よろしくお願いします。

国語調査部長入室

<会長>

それでは、国語部会の報告をお願いします。

<国語調査部長>

中学校国語部会での調査内容について報告いたします。

中学校国語部会では、「東京書籍」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書」の4社について調査をしました。その結果をまとめたものがお手元の資料です。それぞれの教科書に学習指導要領の国語科目標達成のための、様々な工夫や配慮が示されておりました。その中で、はじめに、「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するための工夫」について説明させていただきます。

まず、「東京書籍」では、教材ごとに身に付けたい資質・能力を「言葉の力」として明示しており、三年間で系統的に言葉の力が定着するように工夫されています。また、「漢字道場」や「日本語探検隊」「文法の窓」を小単元として年間を通じて取り扱っており、語彙力向上、基礎・基本の定着が図られるように配慮されています。

次に、「三省堂」では、各単元で学ばせたい「思考の方法」に関連するチャート図を提示することで、複数の読み取り方・解決方法を学ぶことができるようになっています。文章構成が一目で捉えやすいように、見開きで表示する教材も設けている点も工夫されています。

次に「教育出版」では、探求的な学びのサイクルが単元の中で示されているため、生徒が自らの学びを自覚できる工夫がされています。「書くこと」においては、題材の選定から共有までをスモールステップで学習を進められるように構成されています。

最後に「光村図書」では、「語彙ブック」が挟み込まれており、使用語彙を増やし、語感を磨けるような工夫をしていることが最大の特徴です。系統立てて語彙が示されているため、発達の段階に合わせて使用語彙が増え、語感が磨かれることが期待できます。この「語彙ブック」は、他ページよりひとまわり小さな用紙で入っているため、特別感があると共に見付けやすくなっています。この語彙ブックが付いているのは光村のみであり、語彙を増やすことが課題となっている本地域での語彙力向上につながるのではないかと考えます。

続きまして2点目として、主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫について説明いたします。

まず「東京書籍」ですが、問題解決的な言語活動が多く設けられているため、生徒同士が助言し合ったり議論を通して考えを深めたり、互いの考えを生かして結論をまとめたりするなど、協働して学びを深められるような工夫がされています。また、他教科の学習と関連する題材が積極的に取り上げられており、教科横断的なカリキュラム・マネジメントにも配慮されています。

次に、「三省堂」ですが、読み手による解釈の違いを図式化することで、目には見えない考えを共有しやすくなっています。また、書く教材では、数種の創作コースから興味・関心に応じて選択することができ、個別最適な学びにつながるように工夫されています。

次に「教育出版」ですが、各領域の学習活動の中に協働して学習する活動が設定されており、相互に課題を交換しながら、主体的・対話的で深い学びが導かれるように工夫されています。

最後に「光村図書」は、各教材の最後に、学習の流れが分かりやすく図式化された「学びへの扉」があり、指導者側としては指導のねらいが明確となり学習計画をたてやすい、学習側としては本単元で何を学ぶのかが明確になるというメリットが考えられ、主体的に課題解決ができるよう工夫されているのが大きな特徴です。この「学びへの扉」は横書きで分かりやすく、学習の流れの中に、「個別→集団→個別」という流れも設定されており、対話的に理解や考えを深める工夫がされています。

その他話題となった観点につきまして説明いたします。

「東京書籍」では、今回の改訂で、導入と文法解説が連続したページになっており、前回より見やすくなっています。

また、「光村図書」は、古典教材の配列に工夫がみられました。2年生では「枕草子」、3年生では「論語」を第1章に配置し、古典教材の分散化を図り、各学年の一時期に集中的に学ぶのでは

なく、3年間の中で継続的に学ぶことができるよう配慮されています。

最後に二次元コードを活用したQRコンテンツについては、各社とも工夫をしていました。特に、光村は全国学力・学習状況調査でも導入予定のCBT（コンピューター使用の試験）がQRコンテンツに導入されており、コンピューターを使用した試験の対策としての活用が期待されます。

以上の調査結果から、国語調査部会としては、指導者の立場、学習の立場にそって検討した結果、「光村図書」の教科書が最適であるという結論に至りました。

続きまして、「書写」について説明いたします。

書写につきましても、「東京書籍」、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書」の4社について調査をしました。その結果をまとめたものがお手元の資料です。

初めに、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するために、どのように配慮されているかについて申し上げます。

まず、「東京書籍」です。「東京書籍」の教科書では、「1 見つけよう」、「2 確かめよう」、「3 生かそう」、「生活に広げよう」、「書写テストに挑戦」という流れができており、書写の学習が実生活や入試問題にもつながっていることを実感できる作りになっております。また、「生活に広げよう」では、生徒にとって身近な題材を取り上げることで、書写の活用場面を具体的に想起させ、他者との対話を通して、思考力・判断力・表現力を高めることが期待されます。

次に、「三省堂」です。三省堂の教科書は、「書き方を学ぼう」「書いて身に付けよう」で構成され、「書き方を学ぼう」で、どこに気を付けてどのように書けば良いかを学び、「書いて身に付けよう」で、多様な各場面を設定することで主体的に活用する力をつけられるよう工夫されています。また、国語で学習する教材の言葉や一節を多く取り上げているので、語彙や文章の理解を深めながら学んだ書き方を定着させることが期待できます。

続いて教育出版です。「教育出版」の教科書では、目標→考えよう→生かそう→振り返ろうという学習手順が明確化されており、主体的な学びができるように工夫されています。また、各学年で、書き初めや季節の行事での活用例を扱うことで、書写の技能が生活の中の様々な行事に生きていることが実感できるように工夫されています。

最後に光村図書です。「光村図書」の教科書では、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう、各教材は①「考えよう」②「確かめよう」③「生かそう」という流れになっており、この流れが一目で分かるような工夫がされています。また、取り外し可能な硬筆練習帳「書写ブック」が付いています。「書写ブック」では、硬筆課題を豊富に設定しており、硬筆・毛筆の密接な関連を図りながら、毛筆の学習が硬筆に生きるよう工夫しています。また、書写の補助教材を購入する必要がないという利点も考えられます。

続きまして、主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫について説明いたします。

「東京書籍」は、3年生の学習内容に「自分のノートを見直す」という内容が配置され、ノートの効果的な書き方の工夫について学習し、他教科の学習につながるような工夫がされています。ただ、できれば1年時に配置されていれば、なおよいと考えました。

「三省堂」は、毛筆の補充教材が豊富で、個別最適な学びに対応できる作りとなっています。また、篆刻、臨書等高等学校の学習内容が扱われ、発展的な学習ができるよう工夫されているのが特長です。

「教育出版」は、「書式の教室」の文例に、エアメールの書き方や一筆箋の書き方など多くの文例が紹介されており、書写での学びが実生活につながるよう工夫されています。

「光村図書」は、資料が豊富で、生徒の様々な文字に対する興味・関心に応える紙面構成になっています。また、人名漢字のお手本が掲載されているため、「自分の名前を行書で書いてみたい」という主体的な学びに繋がると考えました。さらに、4社の中で唯一、数字とアルファベットの楷書のお手本が掲載されています。

最後に、調査をしていく中で特に話題となった「光村図書」の教科書についてさらに説明させていただきます。「光村図書」は4社中唯一、全ての課題の手本が半紙原寸大で掲載されており、学習者に対して、手本としての見やすさが配慮されています。

二次元コードについては、4社ともに筆づかいを確かめる解説動画が収録されており、学習者が動画を見ながら学びを深められるよう工夫されていますが、特に光村図書では、左利きの学習者に向けてのお手本動画も収録されており、SDGsへの細かな配慮が見られました。

更に、手本作成ソフト「お手本くん」が秀逸でした。任意の文字を入れると半紙大の手本を作成することができ、芸術祭等の作品作りの際に、様々な題字の教材を作成、活用することが可能となります。更に生徒一人一人の名前手本も楷書・行書で簡単に作成できます。様々な題字や生徒の名前の手本を簡単に作成できるのは、生徒一人一人に対応したきめ細かい指導につながり、指導者にとっては大きなメリットとなることが期待できます。同じような機能を有するソフトは、他の3社にはありませんでした。

以上のような観点から、国語・書写調査部では、中学校書写の教科書として「光村図書」の教科書が最適であると考えます。

以上で書写に関する説明を終わります。

<会長>

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。質問がある方はお願いいたします。

<委員>

国語の教科書4社の調査をしてもらったのですが、国語の教科で一番重要な部分は、私は物語文と思っているのですが、その物語文4社とも全く違う題材を取り扱っているじゃないですか。その中でもやはり「光村図書」が今の中学生の実態に合った物語文があるとか、そういう議論はされたのですか。

<国語調査部長>

教材に関しては、物語文は「光村図書」が昔から変わらずと言うか、良い作品を取り上げている点が話題にあがりました。

<委員>

はい。わかりました。

では、今度は書写も4社の中で、書写の授業で一番大事にしくちやいけないところは、筆の動きであると思うんですが、教科書を見ると4社とも大体同じなんですが、その中で突出して「光村図書」を選んだ理由って言うのは、部会としていかがですか。

<国語調査部長>

お手本をわかりやすく提示している点で、指導者側としても指導の狙いやどこに気をつけて指導すれば良いかというのが分かりやすいということで、いろんなお手本を作成することが可能である点も選んだ理由の一つです。

<委員>

部長さんの方から、「光村図書」が原寸大のものでそろえてあるということですが、他社はなかったんですね。

<国語調査部長>

全然ないわけではないんですけど、いくつかある課題の中で何個かだけ大きくなっていて、「光村図書」は全てのお手本が半紙と同じ大きさになっていました。

<委員>

指導者側としたら指導しやすいんじゃないかという観点ですね。分かりました。

<会長>

他にございませんか。

ないようですので、質疑を終了します。

国語調査部長退室

<会長>

それでは、ただいまより審議をいたします。何かご意見のある方は挙手をお願いします。

<委員>

委員の中で物語という話があったんですが、私は国語の教科書を見るときには、やっぱり物語が一番引きつけられるので、読んでみたんですけど、違う会社のものも面白いものがありました。調査委員の意見もちろん参考にしたいと思います。もちろん一番に推薦されたものは、それはそれで面白かったです。

<会長>

他にいかがでしょうか。

ないようですので、このとおり決定したいと思います。

では、次に採択理由書について検討したいと思います。

採択理由書（案）配布

<会長>

何かご意見ありますか。

<委員>

先ほどの質問の回答について、光村の方が物語について、「古いものを大事にしている。」っていう話が出てますっていうことがちょっと気になったんですが、「光村図書」と「東京書籍」が同じものを扱っています。物語に関しては、だから、ああいう言い方だと、光村の方がいいっていう、なんかそんな今の文章と同じようにそちらを良しとして見てるような見方に取られてしまう。一応どちらも1年は「少年の日の思い出」、2年は「走れメロス」、3年は「故郷」と、どちらも同じですね。

<会長>

我々が最終的に、結果を出す審議ですので、報告を受けて審議して、結論を出すわけですから我々もそういう了解がしっかりできたと、いうことであればよろしいかと思います。

<委員>

そういうのがあっても我々の視点では確かに両方同じような作品があつて、良い物語文が掲載されてるっていうような見解を出せば良いと思います。

<委員>

書写の採択理由書の「基本作成ソフト手本君」が秀逸と。

もちろんね、お手本があってもいいんだろうけどとっても簡単便利、簡単便利にそれができるってことが果たして、子供にとっていいのかどうかって、今話を聞いてね。

やっぱり子供は子供が頭で考えてそれで手本があればいいんだろうけど、すべてそれをこうなぞってできたではなくって、そのあたりってやっぱり、子供にとって大事なことになるのかなっていうのをちょっと感じましたので、なぜかっていうと、2つ目の黒ポチの一番下に、指導者にとっては大きなメリットとなるって、これ指導者サイドの場合なんだけど、最終的に、子供にとって、メリットがあるかどうかというものが、この教科書の判断基準なのかなってちょっと感じました。

<委員>

「指導者にとっては」となっているので、「指導者にとっても」に変えればよいと。

<会長>

他いかがですか。

では、採択理由書の検討は以上です。

調査報告書配布

社会調査部長入室

<会長>

それでは、社会部会の報告をお願いします。

<社会調査部長>

社会科部会における調査内容を報告いたします。

「地理」については、合計4社を調査しました。

部会としては、「東京書籍」の「新しい社会 地理」の推薦を考えました。

部会の中で、2番目に注目した日本文教出版と比較しながら推薦理由を説明します。

「東書」は、章の「探究課題」と各ページごとの「学習課題」さらに、学習課題ごとに「チェック」「トライ」が設定されていて、1時間の振り返りができるようになっています。これによって、段階を踏んだ探究学習の見通しを持つことができるようになっています。

「東書」P63 下「探究課題」として、「アジア州の経済発展は、地域にどのような影響をあたえているのでしょうか。」とあり、経済発展に焦点化されています。P64 中段「学習課題」に中国経済の発展を、P66「学習課題」にも韓国の経済発展、P67 には、東南アジアの経済発展といっ

たように「経済発展」をキーワードに探究課題との関連が図られています。

一方、「東書」の「探究課題」が、「日文」P51の「節の問い」がそれに当たります。P51「節の問い」として経済発展をあげているにも関わらず、P56 学習課題には、「南アジアの産業は、どのような特色がみられるのでしょうか。」と、「日文」の系統性に課題が見られます。

「東書」は、主体的な学びにつなぐために、各章の導入ページに単元の見通しを持たせるコーナーを設けたり、探究の視点を明示したりするなどの工夫が見られます。「東書」P61、学習の視点「自然環境」「人口」「産業」等、学習の視点が明確になっています。

一方、「日文」P46・47に同様の導入ページが示されていますが、注意して読み取らないと学習の視点を捉えるために時間がかかるため、「東書」の方が学びやすさがみられます。

「東書」は、「課題をつかむ（動機付け・方向づけ）」「課題を追究する（情報収集・考察）」「課題を解決する（ふり返り・まとめ）」の学習の流れが明確であり、見通しを持って学習に取り組むことができるようになっています。「東書」P60・61には「探究課題」をつかみ、P64・65 各時間の「学習課題」が示され、1時間の振り返りとして「チェック&トライ」、P74・75「探究のステップ」のプロセスを経て、探究課題を解決するという学びが展開しています。

一方、「日文」にも学習課題に対応した確認、表現を手がかりに節の問いを解決する構成になっていますが、「東書」の方が一貫して課題にこだわって追究する学びの構成になっています。

「東書」は、二次元コードのコンテンツの中に思考ツールが充実していることが特徴的です。思考ツールにより、学習内容が整理・まとめやすくなっていて、主体的・対話的な学びをサポートしています。

このことは、「東書」も「日文」も各時間ごとにQRコードが設定され、情報が豊富で活用しやすくなっています。

「東書」は、節のはじめのページP60・61で学習する内容を概観でき、学習の見通しを持つことができるようになっています。

「東書」も「日文」も節ごとに学習の見通しが概観できるようになっています。

「東書」は、最終章に「持続可能な地域の在り方」として第3篇第1章の学習の発展的な課題を設けています。「東書」P269 第4章「持続可能な地域の在り方」とあり、探究しようとする学習活動が明確になっています。

一方、日文には「地域の在り方」にその内容が盛り込まれていますが、学びのコンセプトが不明瞭なため、学びがはい回ることが想定されます。持続可能な地域ということを学ぶという意味では、「東京書籍」が適切であると考えます。

以上の理由で、「地理」に関しては、総合的に判断し、「東書」「新しい社会 地理」を推薦します。

「歴史」については、合計9社を調査しました。

社会科部会としては、「東京書籍」の「新しい社会 歴史」の推薦を考えました。部会の中で2番目に注目した、「帝国書院」の「中学生の歴史」と比較しながら推薦理由を説明

します。

「東書」は、導入資料、章の冒頭や節の中で「なぜ～はこうしたのか」「この時代の人々はどのように暮らしていたのか」といった問いかけから探究心を刺激し、歴史的観点を多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されています。

「東書」の「探究課題」、「帝国」の「章の問い」どちらも、前の時代と比較しながら歴史的特色を考える内容になっています。

「東書」の「チェック＆トライ」では、短時間の説明・要約などで学習内容をまとめることで思考力・判断力・表現力が高められるようにしています。

「東書」では、「チェック＆トライ」の P27、「帝国」では「確認しよう・説明しよう」の P19 右下と同様の目的の活動が設定されていますが、「東書」は P27 下の記述の字数制限をすることで、時間内に必要不可欠な内容を精選する力を養うことができますといえます。

「東書」の P98 右下の「みんなでチャレンジ」コーナーでは、思考ツールを活用し、会話から他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整していく活動を設定することで、主体的・対話的で深い学びが実現する工夫が見られます。

「帝国」の「見方・考え方」、P135 右上では、導入場面で位置付けているのに対して、「東書」の P109 の「みんなでチャレンジ」のように、導入にこだわらず、通常の授業の探究的な学びの場面で協働的な学びが設定されていることから、「東書」の方が協働的な学びの習慣化ができるようになっています。

「東書」は、探究のステップでは、単元全体の問いを設定することで生徒が見通しをもって主体的に学ぶことができるようになっています。

「東書」の P75 右下では、学んだことを P94 の「探究のステップ」思考ツールを活用しながら振り返りに活かせるようになっています。これは帝国にはない特色であり学びの連続性という観点からも有効であります。

「東書」は、P22 の単元導入時のように小学校で習った言葉を掲示することで、つながりを意識した内容の配列になっています。

一方で、「帝国」では各授業の学習内容に合わせて、ページの下に示しています。どちらにもメリットがあると考えられます。

「東書」は、QR コンテンツから、動画やワークシート、学習の振り返りなどが用意されていることで、学習段階に応じて、個別最適な学びを支える工夫が見られます。

「東書」、帝国ともに思考ツールは充実していますが、「東書」の方が資料画像等を教科書の紙面よりもデジタルコンテンツで構成している傾向があります。

「東書」は、年表スケールインデックスが掲載されていることにより、歴史全体の中での位置付けが把握しやすくなっています。

「東書」、「帝国」とともに教科書右側に示されていますが、「東書」の色付けやメモリが入り、見やすくなっていて、特に19世紀以降の時期が捉えやすくなっています。

以上の理由で、「歴史」に関しては、総合的に判断し、東京書籍の「新しい社会 歴史」を推薦します。

「公民」については、6社を調査しました。
社会科部会としては、「東京書籍」の「新しい社会 公民」の推薦を考えました。
推薦理由を、部会で2番目に注目した帝国書院の「中学生の公民」と比較しながら説明します。

「東書」は、P6左の「みんなでチャレンジ」のコーナーは導入場面で、対話的な学びを提案することで、また、通常の探究的な授業においてもP9右下「みんなでチャレンジ」に位置付けており、社会的事象を多面的・多角的に考察する力を養うよう配慮されています。

その一方で、帝国のP22・23の「アクティブ公民AL」のように活動を導入場面で話し合う場面を位置づけている点で違いがあります。意見交流場면을より多く確保していくには、「東書」が効果的となります。

「東書」は、最後に、「終章 より良い社会を目指して」の中で、持続可能な社会について構想し、自分にできることをまとめるページを設け、社会参画に向けた主体的な態度を養えるようにしています。

帝国では、P181第5章「地球社会と私たち」において持続可能な社会を、「東書」ではP181「4部 国際」において持続可能な社会について同様に取り上げています。「東書」は、さらに「終章」P216の扱いで、持続可能な社会について学習者に視点を与えながら、公民・地理・歴史を関連させて捉えさせようとする点が特色といえます。

「東書」は、単元の導入では、活動を通して生徒が主体的に学びに向かえるようにする単元を貫く探究課題を設定しています。

「東書」のP39の「探究課題」として、「日本国憲法が保障する権利を守るために、私たちはどのように社会に関わるべきでしょうか。」、これに対して帝国のP31の「章の問い」で「民主的な社会をつくるために、私たちはどのように憲法をとらえ、考えていくべきでしょうか。」を比較すると、「東書」の方が分かりやすいことがいえます。

「東書」は、導入・展開・まとめの学習段階に応じて個別最適な学びや協働的な学びを支えるための、紙とデジタルを選択でできるコンテンツの工夫がされています。

デジタルコンテンツに関しては、「東書」、帝国ともに充実しています。

「東書」は、学習配列について、各章の学習を「学習に興味をもたせる『導入部』→学習を進める『展開部』→学習をまとめる『終結部』」の形で構造化されています。

このことについては、「東書」、「帝国」とともに同様になっています。

「東書」は、単元全体を貫く「探究課題」の解決を補助する問いが各節に設けられ、まとめの活動で思考ツールが使用できるようにするなどの特色が見られます。

「東書」、帝国ともに章や単元の課題が設定されています。「東書」の P23 において、課題解決のための補助的な問い（鉛筆マーク）がより丁寧に示されており、身近な地域で多文化共生に配慮したものや、外国の文化が定着している事例を探し由来を調べましようとして、さらにその事例が示されています。このように課題解決の手がかりをもつために効果的な配慮がされています。

「東書」は、他教科や他分野との関連するページに印がついており、デジタルコンテンツで確認することができます。

「東書」は、P22 中段右で、どの学習場面においても QR コードが設定されており、帝国よりも個別最適な学びに配慮されていると捉えられます。

「東書」は、用語解説については、「社会科用語マスター」をデジタルコンテンツで見ることができます。紙面上には解説の掲載がない分、教科書が薄くなり軽量化されています。デジタルコンテンツの利用により、「東書」の方が「帝国」より教科書が軽い。紙の量も 10 ページ程度少なくなっています。

以上の理由で、「公民」に関しては、総合的に判断し、「東書」の「新しい社会 歴史」を推薦します。

「地図」については、「帝国書院」と「東京書籍」の 2 社を調査しました。社会科部会としては、「帝国書院」の「中学校社会科地図」の推薦を考えました。推薦理由を東京書籍「新しい社会 地図」と比較しながら説明します。

帝国は、日本の地方ごとに発展的な学習を行うことができるように、地理的分野だけでなく歴史的分野や公民的分野に関連するコーナーを設け、多面的・多角的に社会的事象を考察するつくりになっています。

「帝国」は、「地理的分野のみならず、歴史的分野・公民的分野の関連あり、多面的・多角的に社会的事象を考察できる構成になっています。「帝国」P93 鳥観図に、奈良時代までに開かれた港と主な航路、源平争乱の主な合戦地と、源義経の進路がたどれます。江戸時代の「西廻り航路」のルートが分かります。P93 の上「〇歴」等全部で 31 か所、「〇公」15 か所示され、歴史、公民についても活用しやすくなっております。これは、「東書」にはない特色といえます。

「帝国」は、自然災害や防災についてのページが設けられ、ハザードマップと地形図の比較から防災における地図の有用性を理解することができるように工夫されています。

「帝国」は、「自然災害・防災への意識を高められる資料の豊富さ」がみられます。P159～162 の 4 ページを使って、地震や自然災害について興味をもって理解していく学習が期待できます。P161 では、台風や大雨などの気象災害の発生から、被害・対策、理科との関連も学べ、横断的な学習が取り組みやすくなっています。

一方、東京書籍にも P135、136 の 2 ページに示されていますが、帝国の分かりやすさと横断

的な学習が可能になっていることが分かります。

「帝国」は、現代社会の諸課題について、SDG s のアイコンを該当箇所に配置し、生徒が社会的諸課題についてイメージしやすくなるように工夫されています。

この点については、「帝国」・「東書」ともに位置付けられています。

「帝国」は、「地図で発見！」のコーナーを各所に設けて、社会的な見方・考え方を働かせる問いから主体的に学習に取り組むことができるように工夫されています。

この点については、「東書」でも「Bee's eye」（ミツバチマーク）として同様に設定されています。

「帝国」は、QR コンテンツには、白地図や国旗のクイズなど簡単な問いから、白地図や統計資料、NHK for School へのリンクまで自主的に学習に取り組むことができる様々な工夫がされています。

「個別最適な学び」を支援するコンテンツ（一人一台端末で活用できるQR コンテンツ）によって地域別資料（世界・日本の統計資料を収録）や、NHK for School（動画へのリンク）授業に限らず学習者が学ぼうとする時に端末を使って取り組める、シームレスな学びも可能にしています。

一方、「東書」にもQR コンテンツが設定されていますが、帝国の方が情報量が多く、1人1台端末を活用した探究的な学びにおいては重要な要素になります。

以上の理由で、「地図」に関しては、総合的に判断し、帝国書院「中学校社会地図」を推薦します。

<会長>

ありがとうございました。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

社会科の学習というと、本来は探究というか、そういったものが一番しやすいのかなと思いつつも現実にはなかなか難しい状況もこれまであったと思うんですが。先ほどの説明の中で、思考ツール、くらげチャートが代表的なものとして示されていて、例えば、「新しい社会 歴史」のP95でくらげチャートが思考ツールとして非常に面白い。これは、他の教科書会社にはあまり示されていないという考え方でよろしいですか。他の会社にもあるが、それでも、この会社の方が、ちゃんと位置づけられているととらえてよろしいですか。

<社会調査部長>

QRコード等で引き出すこともできる会社もあるんですが、紙面で子どもたちに見える形で示されることによって、思考ツールで物事を単体で捉えるのではなく、関連付けて、構造的に捉えさせるっていう意図が示されていることで、探究的な学びが展開できるんじゃないかと考えます。

<委員>

教師もまたあらためて学ばなくちゃいけない感じですね。

<会長>

他にいかがでしょうか。

<委員>

地理の説明の中で、この説明の文章の中にあります社会における学習課題と学習問題についてご説明いただきたい。

<社会調査部長>

これは教科によって、または教科書会社によって表記の仕方が違うということなので差があります。一般的に課題といえば、教師が与えて、問題は子供自身から打ち出したものっていうこともあります。社会科に関しての探究課題といったものは、子どもたちが主体的に自分の疑問や、そういったものを引きおこしたものをもとにして、この単元で学ぶべきことに到達できるようなもの。それが学習課題・探究課題として設定しているようです。

<委員>

それが「東書」で非常に細かく提示されているので学びやすいという説明は了解しましたが、この文章の中で、特に日文と比較の話が多かったものですから、地理の一番上の欄で、「東書」の方では、学習課題に対して、学習問題の文章が具体的で取り組みやすい。日文の方は、学習課題の文章が抽象的で課題を捉えにくい。同じような表現の中に学習問題と学習課題を使っていて、違いは教科によって使い分けているのは分かるんですが、この資料上の文言の違いが、同じようなことを言ってるんだけど、片方問題で片方課題というように捉えられてしまうのかな。

あえて「東書」で学習課題。表記上の問題なんですけども、どちらも学習課題という扱いで枠の中に入れている。

<会長>

地理の「東書」の学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の一番下のポチの学習問題という表現ですね。これはあえて学習問題としたのか、そうではなくて課題と書くべき所を問題としたのか。

<社会調査部長>

そうですね。課題と書くべき所を問題としてしまいました。

<委員>

それならその方が分かりやすい。実際は使い分けている場合もあるかと思ったんです。

<会長>

他に質問はありますか。

<委員>

地歴公民とありますけれども3つを関連付けて一体的に編集されている説明がありましたけれども、やはり他の会社と比べると、その辺が明らかに「東書」は優れているって感じはするんですか。

<社会調査部長>

そうですね。これは明らかかなと思います。「東京書籍」は、歴史だったら歴史を単体で、地理だったら地理単体でとらえるのではなくて、できるだけ関連づけをして、両方とも総合的に捉えられるようにする意図がよく分かります。

<委員>

そうすると、地図まで含めて一体的にいつて帝国の方でも思っているんだろうけれども、やはり「東書」と「帝国」比べると、やはり、「帝国」の方が、「東書」以上にわかりやすいし、この指導上の工夫もされてるし、あと、今の地震だとか台風であるとか、そういうのもきめ細かにね、書かれているってことで、地図まで含めて、一体的ではあるんだけど、「帝国」の方が、それ以上に優れているという解釈でいいんですかね。

<社会調査部長>

地図帳に関しては、やはり「帝国書院」の地図帳を比べてみるとわかるんですが、「東京書籍」の場合は、教科書に載っている情報は、できるだけ削いで示されている傾向が強いなっていうのは感じました。

「帝国」の方は、いろんなことを、理科も社会も、3分野についても、踏まえて、すべてここに詳しく情報量を与えている。

つまり、1つのことを調べることで、他の分野についても関連付けて学習できるっていう意味では、この「帝国書院」の地図帳が優れている。情報量はやはり地図帳は調べるツールなので、学習ツールなので、これはやっぱり情報量が多い方がいいのかなというふうには考えております。

<会長>

他にいかがでしょうか。

なければ質疑を終了します。

社会調査部長退室

<会長>

それでは、審議に入ります。ご意見があればお願いします。

<会長>

よろしいですか。

地理・歴史・公民は「東京書籍」、地図は「帝国書籍」ということで決定いたしますね。

次に採択理由書について検討して参ります。

採択理由書（案）配布

<会長>

何かご意見があればお願いします。

<委員>

文言なんですけども、地理の上から4行目の探究学習の「探求、求める」。その下の丸の2行目「探究、究める。」の、これ使い分けてるのかと思ったんですけど、こっちのA3版を見ると、探究学習の見通し、究が究めるになってるので、全部究めると。

<会長>

究めるで統一した方がよろしいですよ。

それでは、地理の一つ目の丸の4行目、「段階を踏んだ探求」これが求めるになってましたので「究める」に訂正ということでお願いします。

他にありますか。

<委員>

公民の採択理由書には、結構デジタルコンテンツに関するコメントが多い。他の公民以外の教科書でも、デジタルコンテンツの表記がある。ここだけ強調されてるのかな。デジタルコンテンツが、新しい教科書の中ではかなり盛り込まれてるってのはわかる。それは間違いではないが公民だけ多いです。大丈夫かなとは思いますが。

1つ目の丸の、4つめに、ちょっと読んでみますと、「導入・展開・まとめの学習段階に応じて、個別最適な学びや協働的な学びを、支えるための紙とデジタルを選択してできるコンテンツの工夫がされてる」というのは、イメージがわからない。個別最適な学びや協働的な学びを、支えるためのコンテンツの工夫がされてるんでしょう、紙とデジタルを選択してできるってのは、紙で

もできる、デジタルでもできるっていう、そのまま。何となく、僕らのイメージがちょっと。どちらでもやれるようにできてますよっていう意味なんじゃないかな。

<委員>

1つの教科書の中で、紙で読み取るのか、コンテンツじゃなくてデジタルで読み取るのか。というふうに書けばいいんですかね。

<委員>

デジタルコンテンツが非常にいろんな学習の場面で、生かせるようにできていて、かつ、どんな子供たちの学びのサポートも十分できてるっていうようなことなんじゃないかな。だから、それぞれ、項目別に書かなくても、十分、デジタル関係、他の教科書も入ってると思うんですけども、そこら辺の所に、学びのサポートに生かされるような構成がされてるみたいな形で書けば、わかる。丁寧に調べていただいた結果だと思うんですけども。

<会長>

教科書の紙面が言葉で表や図なども含めて、さらにデジタルコンテンツに入っていくと発展的に学べるっていうことなんじゃないかな。

<委員>

デジタルコンテンツを使うメリットって軽量化なんだと思うんですよね。

タブレット使うと、だからそういう面でいうと下から2番目の部分は残してもいいんじゃないかなって思います。どこの会社にも共通なんだけど、おそらく、薄くしているところもあると思うんです。

むしろ、4番目のやつは削除しちゃってもいいかもしれないですよね。

<会長>

私もそう思うんですが、皆さん、どうでしょう。

<委員>

全削除で。

<会長>

皆さん、公民の上から四つ目の3行、これすべて削除でいかがでしょうか。

異議のある方いらっしゃいますか。

ないようですので、この3行は削除いたします。

ほかにいかがでしょうか。

<委員>

今の件と似ているのですが、例えば地理だとその見通しを持つことができる。工夫ということがたくさん並んでいるんですね。

学び方についての良さがほとんどなので、それはよくわかるんですね、使い易さ、学び方、ですがやっぱり教科書としては内容が大事だという原点に返ると、内容面の良さもやっぱり、入れた方がいいんじゃないかなっていう、どうもその使い勝手のよさに偏って判断してるわけではないという意味で、内容面の記述も、欲しいのかなっていうふうに思ったのですが、いかがでしょうか。

<会長>

子供たちが学ぶのに、その学びやすいっていうか、そういう観点だけで表記がされていて、その学ぶ内容が教科書に示された学習内容やその辺の良さに関する表記が、ちょっと少ないんですかね。

<委員>

そういうふうに誤解されないように、入れた方がいいんじゃないかなとちょっと思ったのですが。特に地理は少なかったの。

<会長>

地図の自然災害や防災についてのページを設けるといった部分の教える内容についての良さが盛り込まれた項目を付け足してほしいなと思います。

<会長>

ほかに何かありますか。では、一部追加ではございますが、採択理由はこれで決定いたします。

<会長>

異議なし。

数学調査部長入室

<会長>

それでは、数学部会の報告をお願いします。

<数学調査部長>

数学部会の調査内容についてご報告させていただきます。数学部会では7社の教科書について

資料左にあります4項目について調査をしました。その結果をまとめたものがお手元の資料です。その資料をもとに各教科書の特徴について4項目ごと抜粋して報告させていただきます。

まず、「東京書籍」の特徴です。一つ目は日常生活や社会の問題を解決したり既習をもとにして、数量や図形についての性質などを見いだしたりする数学的活動を通して、深い知識や活用できる技能を身に付けられるように配慮しています。二つ目は、課題や問題を解く場面では、複数の考え方やヒントとなる考え方の例が提示してあります。三つ目は多くの章で「単元を貫く題材」を用い、学びが連続し、生徒が主体的に解決していく展開が工夫されています。四つ目は問題場面を体験するアニメーションや作図、立体や展開図を動かすシミュレーション、証明問題の課題解決の手助けとなる「証明メーカー」、練習問題フラッシュカード、章末問題の解答などが用意されています。

「大日本図書」の特徴です。

一つ目は学習の導入部分に、既習事項との関連を重視した導入課題「考えよう」を設けたり、本文の側注に小学校や前の学年までに学んだ内容「思い出そう」を記載したりして、必要に応じて学習を振り返りながら基礎的・基本的な知識、技能を確実に身に付けられるようにした。二つ目は課題を考えるとときに、いくつかの考え方が提示されていて、考え方を比較できるようになっている。三つ目は「課題学習」や「MATHFUL」が巻末に掲載され、生徒の興味・関心に応じた学習ができるよう配慮されている。四つ目は例題の解説動画や音声・映像を使った問題、統計の表・図・グラフを自在に作成できるソフトウェア「スグラパ」などのコンテンツが用意されている。

「学校図書」の特徴です。

一つ目は日常生活の事象や数学の事象から、生徒自身が疑問を見だし、数学化して数学の問題「Q」として表現し、対話を基に見通しを立てて解決していけるようにしている。二つ目は問題解決の場面に必要な見方・考え方や解決できたことをもとに、次の課題につながる新たな疑問が提示されている。三つ目は「Tea Break」や「☞深めよう」、「疑問を考えよう・数学の歴史の話」で、補充的、発展的な内容が豊富に設けられ、生徒の実態に応じた学習が進められるようになっている。四つ目は学習内容のアニメーションや章末問題の解答、発展問題、既習事項確認の振り返り、別解の紹介、統計の表・図・グラフを自在に作成できるソフトウェア「スグラパ」が用意されている。

「教育出版」の特徴です。

一つ目は基礎的・基本的な内容を確実に定着させるため、生徒の学力差に対応して「図」を用いた視覚的な表現と「動画▶」を用いた動的な表現を組み合わせ示している。二つ目は問題を解決するときどのような見方・考え方を働かせればよいかが提示されている。三つ目は各学年の章末「数学の広場」などで、高校数学へつながる発展的な学習内容が配列されている。また、3年巻末「広がる数学」では、高校数学で学習する内容を中学校数学での学習と関連させて紹介されている。四つ目は学習内容のアニメーションや動画、解説、復習問題、章末問題の解答、既習事項の確認、統計の表・図・グラフを自在に作成できるソフトウェア「スグラパ」などのコンテンツが用意されている。

「啓林館」の特徴です。

一つ目は、問題設定にあたっては「〇〇の利用」の節には「ステップ方式」の課題を必ず置き、数学的に表現・処理したり、考察したりしようとする姿勢が身に付くようにしている。二つ目は新しい問題を見つけたり学びを広げたりするときに役立つ考え方を提示している。三つ目は章末問題「学びを確かめよう」「学びを身につけよう」では、基礎的な内容から応用力を問う内容まで設定されている。また、「数学の広場」「力をつけよう」では学んだことの総仕上げができるように構成されている。四つ目は動画による解説「スマートレクチャー」や補充問題、図形やグラフを自由に操作して動かせるシミュレーション、ヒストグラム作成ツールなどのコンテンツが用意されている。

「数研出版」の特徴です。

一つ目は数式で表現したり、数式を読み取ったりする機会が豊富に設け、数理的に考察し表現する基本的な能力の習熟がはかれるようになっている。二つ目は課題を考えるときに、働かせてほしい見方・考え方が対話形式で示され、試行錯誤しながら解決できるようになっている。三つ目は基本的な計算を必ず習得できるように、「問」「練習問題」「確認問題」「章の問題」「チャレンジ編」に分け、習熟度に応じた十分な量の問題を配置している。四つ目は補充問題や問題のアニメーション動画、解説動画、ワークシート、公立高校入試問題などのコンテンツが用意されている。

「日本文教出版」の特徴です。

一つ目は生徒1人1人の学習状況や興味・関心に応じて取り組むことができるように、十分な量の問題が小節、節末、章末、巻末に用意されている。二つ目は問題解決時に必要な見方・考え方が提示されているとともに次の課題が提示されている。三つ目は「算数の確かめ」「総合問題」「活用問題」「ステップアップ」というように、一人ひとりの学習状況に対応できる様々なタイプの問題が用意されている。四つ目はアニメーションやシミュレーション、フラッシュカード型練習問題、統計の表・図・グラフを自在に作成できるソフトウェア「スグラパ」、コンテンツ書き込みペンツールなどのコンテンツが用意されている。

続きまして、調査をしていく中で、次の点が優れていると思った会社は、QRコンテンツ、問題数の豊富さ、小中学校の接続、全国学力・学習調査について、様々な教育課題、紙面構成について2社を絞り込みました。それは「啓林館」と「学校図書」です。先ほど申し上げました観点で、2社をさらに深く集中して比較した結果、「啓林館」が本第4採択地区の生徒及び教師にとって適切であると判断しました。

まずは、QRコンテンツが充実している。授業でも家庭でも活用できるコンテンツが多数ある。また、動かし操作して思考力を育てるシミュレーション型コンテンツや問題解説動画、スライドショー、プログラミングなどコンテンツの種類も豊富である。

二つ目は、問題数が豊富かつ多様である。「例」「例題」「問」「練習問題」をはじめ、章末問題「学びを確かめよう」「学びを身につけよう」では基礎的な内容から応用力を問う内容まで設定されている。また「数学の広場」「力をつけよう」では学んだことの総仕上げができるように配慮されている。

三つ目は、「自ら問題を発見し、解決し、深める力の育成」に役立つ配慮がなされている。各単元の「〇〇の利用」において「ステップ方式」の課題が配置されている。全学年で継続して、この「ステップ」を繰り返すことで、自ら問題を発見して解決し、解いた問題をさらに深める態度の育成が期待できる。

四つ目は、小中の接続を意識した配慮が見られる。算数の学習内容に関連する内容を学ぶ際には「ふりかえり算数」、算数で学んだことを発展させる「ひろげよう」、算数で学んだことのうち、苦手とされる内容を確認できる「学びをふりかえろう」、生徒が主体的に振り返り、スパイラルな学習を行うことができる。

五つ目は、全国学力・学習状況調査で判明した課題への対応が見られる。同じ流れで考える場面を設け「筋道立てて説明する力」、活用型の問題を設定し数学的な表現を用いて「判断の理由を説明する力」を身に付けられるように配慮されている。また、言語活動の場面も多数配置され、分量も内容も適切である。

六つ目は、様々な教育課題への配慮がされている。SDGs、消費者教育、環境教育等に関連した題材が全学年で配置されているだけでなく、理科、保健・体育、美術等の教科横断的な題材も配置されている。また、マルチリンガル教科書が用意されていて、英語を始め中国語、タイ語、スペイン語など10ヶ国に対応している。これは、有料で別売なんですけど、魅力的でした。

七つ目は、紙面構成が生徒にとって見やすくかつ読みやすく配慮されている。ユニバーサルデザインフォント（字体）、カラーユニバーサルデザイン（配色）を考慮し、「例」「例題」をはじめ学習内容やポイントとなる事項が分かりやすいように工夫されている。

以上で調査部会からの報告を終了させていただきます。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

全国学力・学習調査に関連した学びができる話がでましたが、具体的にはどういった点ですか。

<数学調査部長>

学力・学習調査で今、出てるのは、対話形式で、人がしゃべってて、問題文が多かったりするところなんです。例えば「啓林館」の、3年生の86ページなどは、動点の問題ですが、ここが子供たちが苦手としているようなところなので、しっかりと1ページを使って、説明されています。

<委員>

それは、他の会社には見られなかったんですか。

<数学調査部長>

少なかったり、扱いが薄かったというのは見受けられました。

<会長>

他に質問はありますか。

<委員>

「啓林館」の良いところ、6点挙げていただいたんだけど、数学って大事な部分で、数学的な考え方を育てる所で「啓林館」が適していると判断された。そういうのを体得できる教科書というイメージを受けたんですが。

<数学調査部長>

「啓林館」は、円の定理の問題でも、やはり、細かく深く取り扱っています。

やっぱりページ数が多くて、丁寧に、記述されているというところが、そのような力がつくつていうふうに理解しました。

あとは、「円の性質の利用」っていうものがあって、先ほどの全国学力・学習調査の問題にも、繋がるんですけど。このように、実生活の場面から数学化していくというところが丁寧に扱われていました。

<会長>

それは、何年生の何ページですか。

<数学調査部長>

3年生の172ページです。

<会長>

他に質問ありますか。

なければ質疑を終了します。

数学調査部長退室

<会長>

それでは、ただいまよりご審議いたします。意見のある方はいらっしゃいますか。

では、報告のとおり啓林館で決定いたします。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

ご意見などありましたら、お願いします。

<委員>

第4採択地区は外国籍の子供って結構多いんでしょうか。

それが多いのであれば、下から2つ目の丸、いわゆるマルチリンガルの強化等で選んだっていう項目が生きてくると思うんですけども、その対応がないのであれば、第4採択地区として選ぶ理由がここであるのかなっていうところがあるんですけど。

わざわざ明記しなくちゃいけない理由。しかも別売りなので。

<委員>

大洗は多い。

<委員>

ということは、書いた方が良いですね。

<委員>

ウードゥー語などは、対応してない。

一般的な外国語は対応してるかもしれませんが、パキスタン系ウードゥー語は翻訳機でも対応していなく、苦勞してる。

<委員>

大洗が有効ならば、第4採択地区として明記する理由がある。

<会長>

他にご意見はありますか。

なければ、採択理由書はこれで決定いたします。

社会採択理由書（案）配付

<会長>

社会の地理の、先ほど、委員から指摘のあった内容について触れてよろしいということで、丸の1つ目と2つ目について、例えば外接アジア州の探求課題として経済化について。2つ目の第2章世界の諸地域というところに入ってきてますね。

いかがですか。よろしいですか

<委員>

先ほど修正したものと同じような形でですね。

第1節の方ですけども、1単位時間っていうことになるんでしょうけども。

<委員>

この読み取りが私は読み取れなかった。この時間の1時間の振り返りなのか。

<委員>

それがちょっとわかりにくいかな。

<会長>

1つ目の丸の4行ですね。

1単位時間。では、それを直していただいたもので完成ということをお願いします。

理科調査部長入室

<会長>

理科部会の調査報告をお願いします。

<理科調査部長>

理科調査部会では、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「啓林館」の5社について詳細に比較、検討をいたしました。

各出版社とも、学習指導要領の教科の目標を達成するための配慮が見られました。それぞれに特色があり、一長一短がありましたが、総合的に判断した結果を調査報告書の項目・観点に沿ってご説明いたします。

まず、一つ目の観点は観察、実験などを行い、科学的に探究するための配慮です。

各社、探究する力を育成することを目指し、主体的に見通しをもって取り組むことができるよう配慮されていました。各社とも、巻頭や巻末に、探究の過程・探究の進め方などの掲載もみら

れました。

特に「啓林館」は、各学年とも、探究する力を育てる教科書の構成が統一されており、課題解決の流れが1本のラインになっているため、生徒が見通しをもって取り組めるように配慮されています。巻頭に探究の過程をサイクル図として示し、漫画で具体例を示すことで、探究の流れが分かりやすいように配慮されています。以降のページにおいても、探究の流れに沿ってページが展開されています。巻末には、単元ごとに設定された探究活動のワークシート【探Qシート】が準備されています。ワークシート【探Qシート】は構成が統一され、探究の過程を意識したつくりになっており、探究活動に慣れる配慮がされています。各学年で重視される探究の過程の項目は「ここをしっかりと！」の文言で明示されており、生徒が意識して思考を深めることができるようになっています。また、思考を深めるために、「それってホント？」という欄があり、批判的な思考が提示され、「なるほど」という欄では、生徒が誤りやすい概念を取り上げ、理解や思考を促す工夫がされています。

続いて二つ目の内容の程度及び取扱いについての「理科における見方・考え方を働かせるための工夫」についてです。

「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」は、「問題発見」「仮説」「計画」「分析解釈」などの場面で、キャラクターによる対話や問いかけを示し、生徒が疑問点を発見し、対話的で主体的に学ぶような工夫がなされています。「啓林館」では、章の導入場面で、生徒の疑問を引き出す動画が視聴でき、疑問から探究的な学びに繋げる工夫がなされています。また、各単元に設定された「探Q実験・実習」では、他者との意見交換の場面が設定されており、自分の考えの妥当性を検討・洗練することができ、根拠のある仮説を立て、対話を豊かにしながら主体的に課題に取り組めるような工夫がされています。さらに、「学ぶ前にトライ！」と「学んだ後にリトライ！」というものがあり、単元学習の前後での「理科の見方・考え方」がどのように変容したのかを実感でき、単元を貫く問いによって、何を学習するのか、何ができるようになるのかなど、生徒が見通しをもって取り組める工夫がされています。

3つ目の単元の構成や教材の配列には、どのような特色があるかについてです。

「東京書籍」「教育出版」は季節に配慮した配列。「大日本図書」「教育出版」は、実験器具や理科室の使用が重ならないよう調整された配列となっています。「啓林館」は単元の系統に配慮した配列となっており、全ての学年とも「生命」「地球」「物質」「エネルギー」の4領域のインデックスにより、小学校・高校への系統性を意識しやすい構成になっています。また、各学年での学習内容を振り返る際に、全ての学年とも統一された単元配列になっているので比較しやすいように工夫されています。

配当時数ですが、各社すべての教科書とも余裕をもって指導できる分量の指導計画が作成されており、また、2学期制・3学期制のどちらにも対応できるよう指導計画が作成されています。

第4の観点、「表記・資料等について、どのような工夫が見られるか」についてです。

各社とも、さまざまな記号やマークを付けて、視覚的にとらえやすく工夫されています。また、「大日本図書」以外は、ページ上のQRコードから教科書を補充する情報や動画を確認できるようになっています。

特に「啓林館」では、ICTが活用できるQRコンテンツが各学年200個前後と充実しており、学びを広げることができます。

具体的には、すべての章の導入場面で、生徒の疑問を引き出す動画【はてなスイッチ】がQRコードで視聴できるため、生徒の疑問から探究的な学習へ繋げる工夫がされています。QRコンテンツでは、導入で活用できる動画以外にも、分子モデルやグラフの作成など、動かしたり、編集したりしながら、生徒の理解・学びを深めるデジタル教材、発表や整理のためのシート、練習問題なども豊富に用意されています。実験のページにもQRコードが用意されており、実験器具の使い方、実験方法、実験結果の処理、分析のための動画が見られ、予習する際に実験のイメージが持ちやすく、復習の際にも視覚的に理解しやすいようになっています。

最後に、4つの観点以外ですが、理科で重要な「実験を安全に、確実に」ということで説明をさせていただきます。各社とも実験にあたっては、薬品の分量等を十分に検討し、安全に実験できるような配慮がされています。理科の実験で事故として多く報告される「硫化水素」。鉄と硫黄の化学反応ですが、各社とも鉄と硫黄の分量については慎重に設定されています。しかし、化学反応後にできる「硫化鉄」に塩酸をかけ「硫化水素」を発生させる実験については、「啓林館」では行いません。文章による説明のみです。また、実験の際の注意喚起については、各社とも表示していますが「文字」のみ「アイコン」のみです。「啓林館」は特別支援の観点から、実験の注意点をわかりやすいように「文字」と「アイコン」の両方で表示し、観察・実験では安全面を最優先に構成されています。

以上のような検討結果から、当調査部会では「QRコンテンツの充実」「探究の過程を通じた学習を徹底させている」の2点から、「啓林館」の「未来へ広がるサイエンス」の評価が極めて高かったことをご報告します。

<会長>

それでは、質疑に入ります。

ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

QRコードの内容が充実していたとのことですが、他社と比べて、どんな点が違うのか説明願います。

<理科調査部長>

まず、「大日本」さんはちょっと今回は全くありません。

他もQRコードで用意されてるんですが、どちらかというと、「啓林館」以外は資料にとぶとか、その補助資料の説明とか、そういう内容が多かったのですが、「啓林館」さんは実験の動画とか、いろいろ動画的な説明の他に、先ほど言ったように、分子モデルを動かすとか、あとは先ほど言った「探Qシート」のまとめるシートなんかも、PDFとワードとかエクセルとかいろいろなものが用意されていて、教員が新たにワークシートを用意することじゃなくて、必要に応じて使えるようなものをQRコンテンツから取るような形で、先ほど言ったような各学年になるということなんです、いろいろレパトリーを積んで、用意されてました。

<会長>

他に質問はありますか。

<委員>

この表の文の頭についてる記号なのですが、二重丸が大変良い、丸が良いっていうような読み取りでつけてあるのですか。

<理科調査部長>

申し訳ありません。最初に説明しなかったんですが、二重丸が特にすぐれてる点っていうことで、あとはちょっと優れているのが丸ということで対応させていただきました。

黒い三角が、課題検討する必要があるっていうところですね。

<委員>

「学校図書」の一番下黒い星印が1つだけあるのですが。

<理科調査部長>

これは良いとか悪いとかじゃなくて、調査部員の中で、自分が授業に使うときに、教師の参考図書として持っていきたいような教科書ですねっていうことで、感想的に出てきたものです。

<会長>

大変、精緻に詳細にまとめていただいてありがとうございました。

<委員>

すいません私の方から。

一番下の欄外のところに、重量が書いてあると思うんですけども、それぞれ会社によって学

年の重量が違いますよね。

<理科調査部長>

はい。

<委員>

ということはこれは単純にページ数が違うということで考えてよろしいんですか。
紙の厚さが違うとかそういうことじゃなくて、紙質が違うとか。

<理科調査部長>

ページ数までちょっと確認しなかったんですが。

ただ、その「啓林館」さんに関しては、やはり先ほど説明させていただいたように、内容的なもの、発展的なものがすごく充実しているので、当然、「啓林館」はちょっと多めになってます。

ただ、それを授業で行うかどうかは、子供のその能力とか、興味関心で扱う扱わないは別だと思うんですが、そういう補充的なもの発展的なものが多くて「啓林館」さんはちょっと多めになってますね。

<委員>

単純に考えると、QRコードでこれから教科書が読み取れるようになって、だんだんQRコードが発達してくれば、教科書のページ数で減ってくるのかなって思うんですけど、ここに教科書に載せられている写真や動画よりもQRコンテンツの方が充実してるので、薄くなる可能性があるのかなって私自身は思ってたんです。

<理科調査部長>

おっしゃる通りだと思います。

<委員>

「啓林館」さんの方が厚みを帯びて、教科が深まりを得られるような内容になってるということですか。

<会長>

他にございますか。

<委員>

二重丸・丸・三角で、調査報告書を見たときに、「大日本図書」は、三角マークがない。
ただいまの説明で聞くとQRコンテンツがないとか、いくつかはありますよね。

「啓林館」の方も、三角が下に3つついてるから、「大日本図書」は、三角もないのに、ちょっとどうなのかなって思ったんですけど。

<理科調査部長>

「大日本」さんは、今回いろいろあった件で、明らかに4年間分の遅れというか、どの項目で、どの部分が落ちると言うより、全体的にイメージとして、調査部員みんなが古いという感じで、やっぱりその遅れを感じるなということで、個別に、これが課題というよりも全体通してもうちょっと今の時代に遅れてるなっていう意見が出ました。

<会長>

「大日本図書」はいわゆる旧版ですか。4年前に作った教科書なので、ちょっと古いんでしょうかね。

<理科調査部長>

4年間の変化を大きく感じました。

<委員>

逆に言うと、この調査書にそれを書き込むことはできないんですかね。

というのは、三角が多いところが選ばれて、少ないところが選ばれないっていうのを見た人は、おかしいんじゃないかっていう視点なので、逆に言うと旧版を使っているの、新しい教育にはふさわしくないっていうふうに明示しちゃうか。そこらへんどうなんでしょう。

<会長>

三角を一番下の方に1つ、今おっしゃったことを1つに入れば。

<理科調査部長>

一番下の4番目の項目にそれをちょっと付け加えたいと思います。

<委員>

最新のデータをQRコードで示していくっていうのは、理科関係は、日々どんどん変わってきてますので、大事なかなと思うんですけど。そういったデータは、指導者用のデジタル教科書にそういったものをどんどん反映され、数の多さよりは質なんだろうと思うんですよ。そのデータの質、そういった視点で選ばれたと思うんですけど。必ずしも量だけとは言えないんじゃないかなと。その辺で、いわゆるこのデータなんか、最新のなものが、多く掲載されてることですよ。 「大日本図書」もQRコードはあるんですけど、やっぱり数は多くはない。

<会長>

他に何かありますか。

では、ないようですので質疑を終了します。

理科調査部長退室

<会長>

ただいまより審議をいたします。

ご意見などありましたら、お願いします。

<会長>

よろしいですか。では報告のとおり「啓林館」に決定いたします。

採択理由書（案）配布

<会長>

いかがでしょうか。

<委員>

QRコンテンツが各学年 200 個前後と充実してるって書いてあるんですけども。200 個数えられたと思うんですが、数じゃないと思う。

200 個前後あると同時に、内容も質的にも充実してるとか、そういうふうな、ちょっと、一応一言入れればいいんじゃない。

<会長>

数だけではなくて質と言うことですよね。

一番上の丸ですね、「ICTの活用でQRコンテンツが200個前後あり、質的にも充実しており、学びを広げる」ということに訂正しようと思いますがいかがでしょうか。

<委員>

2枚目の一番最後のところなんですけど、観察実験での安全面というところで、特別支援の観点から、文字とアイコンで示すというような表現なんですけれども、特別支援の観点と言うよりも、誰でも使いやすいっていう意味では、例えばユニバーサルデザインの観点の方が、よろしいんじゃないでしょうか。

むしろ、特別支援対象ということではなくて、誰にでも使いやすいというような形での表現の方が良いかなと思います。

<会長>

2枚目、下から2つ目の丸ですね。「安全で確実に結果が得られる薬品の量の設定、ユニバーサルデザインの観点から」。特別支援って言葉ではなく、ユニバーサルデザインという言葉に書きかえるということでしょうか。

<委員>

先ほどと同じ観点で、先ほどの地理と同じ観点でどうしても見てしまいますとやはり、学習の学び方、先ほどから出てるコンピューターの問題が多いので、内容的にもちょっと見ましたら、地球温暖化や、地球のタイプと天気の変化って、啓林館の方が、取り上げてたり、生きている地球という一年生で取り上げてたり、気象の問題とか地震の問題とかも、取り上げてあるので、そういったところの特徴等も1つ入れておけば、内容的にも良いんだってということがいえるんじゃないかなと思いました。1枠に内容の充実みたいな項目で、近代的な問題を取り上げているってような方が入ると説得力が増す。

また地理の方でも申し上げてしまったので、同じ観点で話をさせていただきました。

<会長>

「啓林館」の教科書は内容的にもこういう内容は取り上げられていることがすぐれているという表現の記載を、1つぐらい追加していただけるとありがたい。

理科調査部長入室

<会長>

1つ、この理由書に追加して記載していただきたいというご意見が出ました。

申し上げますと、この「啓林館」の教科書が取り上げている内容としてもこういう点がすぐれている。例えば、今現代的な課題となってる地球の温暖化、気象の急激な変化であるとか、地震災害が多くなってきたとか、そういったことを現代的な課題を、取り上げてるんだなということが多分あると思うので、そういったことを1つその内容として優れている点みたいな、項目を4つありますね。QRコンテンツのこととか、探究の過程とか、内容の配分とか、観察・実験の安全面プラスその内容の工夫とかね。そういった新たな項目を追加して、すぐれている点を1つ2つ付け加えていただけるとさらに素晴らしい理由書になるのかなと思いましたので、申し訳ないんですが、別室で作っていただけるとありがたいです。

<理科調査部長>

はい、分かりました。

<委員>

1枚目の探究の活動を通じて学習設定のところの課題解決の流れが一本のラインになっているためって言うところが、理科的な考え方からすると、ちょっと、考えちゃうんですね。

理科の解決方法は多面的に、1つの方法だけでやるんじゃないくて、多様な考え方、アプローチがあるんですね。

これと言おうとしてることは、探究する流れが、統一されていて。どの単位でも、その課題解決に向けて生徒が見通しを持って取り組むようになってるっていうことであって、一本の流れっていうことではないような気がするんですよ。理科では多面的な解決の方のいろんなアプローチがあるんだよね、一本じゃないというところ、ちょっと少し抵抗がありますね。

内容を見たら、子供が、自分はどの単位でもやりやすくなってるっていう表現ではあると思ってるですけどね。

<会長>

訂正の仕方としては、各学年とも探究する力を育てる教科書の構成が統一されており、そのあとの課題解決が1本のラインになっているため、これを削除した文章ですかね。

<委員>

使ってもいいし、どの単位でもっていう言葉を入れて、どの単位でも生徒が見通しを持って配慮されてるってなれば、通じるかなって感じがします。

<会長>

1本のラインっていうところ。

探究の過程を通じた学習の設定として、一つ目のマルですが、「各学年とも探究する力を育てる教科書の構成が統一されており、どの単位でも、それは生徒が見通しを持って取り組めるように配慮されている」というふうに直したいと思います。

よろしいですか。他についてもよろしいですかね。

<委員>

異議なし

<会長>

では、以上で決定いたします。

音楽調査部長入室

<会長>

それでは、音楽部会の調査報告をお願いします。

<音楽調査部長>

音楽科調査部会の調査内容について、ご報告させていただきます。

音楽科の調査部会では、「教育出版」と「教育芸術社」の2社の教科書について、それぞれ4つの観点について調査をいたしました。

その結果をまとめたものが、お手元の資料でございます。その資料をもとに、各教科書の特色について簡単にご報告させていただきます。

はじめに、「教育出版」の教科書（一般）の特色について、ご報告いたします。

まず1つ目の観点「生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための配慮」についてです。

各学年の巻頭カラーをご覧ください。どの学年も「With My Heart 音楽はメッセージ」と「作者の思いにふれる」という2つのコーナーが配置され、社会で活躍する音楽家やこれまでの音楽の歴史の中で輝いていた作曲家たちが紹介され、音楽の世界に引き込まれる工夫がされています。また、1年生では「音楽制作アプリ」について、2・3年上では「音楽著作権について」、そして2・3年下では「コンピュータと音楽」について取り上げることで、暮らしの中の音楽の特にデジタルな面について考えを深めることができるようになっています。さらに、「日本の歌、みんなの歌」では美しく豊富な資料により、歌い継がれてきた音楽のよさや歴史に触れられるようになっています。西洋音楽だけでなく、アジアの音楽の資料も充実しており、多様な音楽文化への興味・関心を高める工夫がされています。

次に2つ目の観点「音楽的な見方・考え方を働かせるための工夫」についてです。

1年生のP47、60をご覧ください。「Active!」や「表現の仕方を調べてみよう」のコーナーでは、ワークシートに沿って「聴き取ったこと」「感じ取ったこと」をまとめることで、それぞれの生徒の「見方・考え方」を働かせる活動を進められるようになっています。また、このワークシートを活用して、他の生徒と交流し共有する協働的な学習につなげることもできます。その下支えになる「音楽を形づくっている要素」については、各学年とも1ページにまとまっており、それらの働きについて理解を深められるようになっています。

各題材・教材に「比べてみよう」のアイコンが配置され、曲想の違いや曲の情景など、既習曲を含む複数の楽曲を比較することにより、学習が深められる工夫がされています。

次に3つ目の観点「題材の構成や教材の配列の特色」についてです。

全体的に、基礎的・基本的な知識の習得から発展的な内容の習得へとつながるよう、無理のない分量で配列されています。主に取り扱う教材と関連教材の組み合わせにより、学校の実態や学期制、カリキュラムに応じた柔軟な対応ができるよう配慮されています。どの学年も、題材がど

のように配列され、どのように関連づけられているかが学習者にもわかるよう、目次の次頁に「学習MAP」として提示され、見開きでわかるようになっています。

次に4つ目の観点「表記、体裁、資料等における工夫」についてです。

楽譜・文字の適切な大きさ、色遣いやフォントにおけるユニバーサルデザインの使用などから、誰もが読みやすいものになるような配慮が見られます。使用頻度に合わせた紙の厚さや、写真資料などの発色の良さも、使いやすさに結びついています。各教材に学習に役立つコンテンツにつながるQRコードが掲載され、特に「まなびリンク」が活用できる教材では、動画・音声・資料が充実しています。学習者がそれぞれの端末から必要に応じてコードを読み取り、主体的に学習するツールとして活用することができます。

続きまして、「教育芸術社」についてご報告いたします。

まず1つ目の観点です。

巻頭に、現在活躍している音楽家の言葉とともに、音楽以外の分野で活躍する専門家からのメッセージが紹介されています。音楽が生活のあらゆる場面で人と関わっていることに気づき、より幅広い価値観に触れることができる魅力的な人選となっています。各学年に、「生活や社会の中の音や音楽」のコーナーがあり、日常生活と音や音楽との関わりについて気付く工夫がされています。特に日本の伝統音楽については資料が豊富で、2・3年下のP55のように中学生が地域の人とともに祭りや芸能に携わる写真もあり、日本の伝統的な音楽を身近なものとして感じることのできる素材となっています。1年生のP66、2・3年下のP64では著作権について取り上げ、現代社会の音楽に関する課題についても学習できるようになっています。

次に2つ目の観点についてです。

1年生のP19、45のように、3年間を通して、歌唱、鑑賞それぞれに「学びのコンパス」が配置され、知覚・感受したことと音楽的な特徴を関連付けて理解できるようになっています。また、創作の題材が歌唱や鑑賞の題材とリンクして配置されていることで、音楽的な見方や考え方を深めることができ、題材間の学びの連続性をつかみやすいよう工夫されています。各学年の最後には、「音楽の学びを振り返ろう」として、1年間（3年間）の音楽の授業を振り返って、みんなに薦めたい1曲をプレゼンするつくりとなっています。ポイントとして音楽を形づくっている要素があげられており、音楽的な見方や考え方を深められるようになっているとともに、効果的なアウトプットの場として設定されています。音楽を形づくっている要素についての資料は、学年で学習する内容とリンクしており、分かりやすくなっています。

次に3つ目の観点についてです。

全学年を通して系統的・発展的に教材が組織されており、小学校における学習状況や各学年の発達段階に応じた無理のない配列になっています。ねらいに即した学習内容や関連教材が組織さ

れており、その組み合わせによって、教材における学習活動の分量を弾力的に増減できるよう配慮されています。目次の次頁に「学びの地図」として各学年の学習内容と教材の配列が図示されており、学習者にも「資質・能力の三つの柱」との関連がわかるようになっています。

次に4つ目の観点についてです。

楽譜や文章、資料写真などは適切な大きさや分量で配置されています。特に楽譜中の歌詞に至るまでユニバーサルデザインフォントが使用されていて文字が読みやすく、誰もが使いやすいものになるよう配慮されています。イラストはシンプルで柔らかな色調のものが多く、楽譜や文章など学習に必要な情報に注目できるようになっています。表紙を含めた人物のイラストも、外国にルーツを持つ生徒やパンツスタイルの制服を着用する女子生徒が自然に描かれており、多様性への配慮が見られます。また、各教材にQRコードを掲載し、楽曲に関する動画や歌唱教材のピアノ伴奏、合唱のパート別音源などの情報を視聴することができるようになっています。「学びのコンパス」のQRコードからはワークシート、創作のページからは創作ツールがダウンロードでき、学習者の実態に応じて、端末を活用しながら主体的に学習できる手立てとなっています。

続いて、器楽の教科書についてご説明いたします。

2社とも、全体的な特色は、一般のものと同じスタンスで作られていました。

特に器楽に関して特徴的な部分をご説明いたします。

まず「教育出版」のものです。

多様な楽器の組み合わせによるアンサンブル活動を多数掲載し、基本的な奏法を生かして他者と協働して表現することができるよう工夫されています。また、P46、88のように、和楽器を用いた創作活動やアンサンブル活動が、生徒にとって親しみやすい教材とともに扱われており、日本の伝統音楽や音楽文化に関する配慮がされています。P10～19のように、リコーダー演奏時の運指が楽譜脇に明示されており、学習者が必要に応じて正しい運指を確認しながら演奏できるよう工夫されています。

次に「教育芸術社」のものです。

P68のバンドスコアや様々なジャンルの音楽、P107の同世代による伝統音楽の活動の様子を特集ページで取り上げていることや、中学生への思いを託した新作を豊富に取り入れていることで、学習者の好奇心に働きかけ、興味・関心が高まるよう工夫されています。P17「学びのコンパス」P18「Q&A」などでは、小学校で身に付けたことや基礎的な学習内容を確認できるようになっており、繰り返し学習できるよう工夫されています。P30にあるようなギターの運指図では、学習者が実際の手の形や向きがとらえやすいよう、わかりやすく図式化されています。

以上、2社の教科書を総合的に見ますと、「教育出版社」の方は、選択できるオプション的な教

材や発展的な内容が充実しており、複数の楽曲に触れて、それを比較することで音楽的な見方・考え方を働かせることができる学習活動を取り入れているところが特色です。豊富な資料で専門的な知識を身に付けながら、より深く音楽を味わうことができる内容となっています。主体的な学びにつながるデジタルコンテンツも効果的に配置されています。

「教育芸術社」の方は、中学生にとって身近な素材を効果的に活用して学習者の興味・関心を高めながら、音楽的な見方・考え方を働かせる学習が無理なく配置されています。探究的な学びにつながる学習活動と、主体的な学びを支えるデジタルコンテンツも工夫されています。ユニバーサルデザインやイラストのキャラクターの取扱いも含めて、多様性や幅広い価値観といったダイバーシティに配慮されたものとなっており、生活や社会と音楽とのつながりがより強く意識されたものとなっているところが特色です。

以上のことから、調査部会としては、後者「教育芸術社」の教科書が、「学習者の興味・関心を高める無理のない学習活動」「探究的な学びの実現」「多様性と幅広い価値観への配慮」という点が優れており、地域の生徒の実態にあったものであると考えます。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

私の方から1点。教科書展示会で一般市民の方からちょっとご指摘を受けた件なんですが、「教育芸術社」の2・3上の60ページにいわゆる刺青の絵があるんだけど、これは中学生にとっていかがなものかっていうご意見をちょうだいして、今度のときに、ちょっと話出してみますっていうことだったんですが、国の検定を受けてきたので、問題はないっていう取り扱いなんですっていう説明は私もしましたけれども、こういうのは話題にならないですね。

<音楽調査部長>

そうですね、歌舞伎の演目であるということと、そこに取り上げられてるやっばり役であるとかそういったものによって、これだけではもちろんないんですけども、その特色の1つとして、取り上げていると思います。

<委員>

わかりました。

一般市民県民の方々はそういう視点で、中学生の視点で見てるっていう人はいるっていうことを、ちょっとお伝えしております。

<会長>

その他はございますか。なければ、質疑を終了いたします。
それでは、調査活動ありがとうございました。

音楽調査部長退室

<会長>

それでは、審議をいたします。意見などあればお願いします。

<会長>

よろしいですか。それでは、報告のとおり決定いたします。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

ご意見などありましたら、挙手をお願いします。

<委員>

1 ページ目の下から 2 つ目の丸の UD フォントってあるんですが、これ、ユニバーサルデザインなんだろうけど、UD フォントってのは一般的な名前なんですか。

じゃなければユニバーサルデザインフォントってそのままストレートに書いたほうがいいのかな。それは 2 枚目にもいえますね。UD フォントって一般的に言うのかな。

<会長>

今までの採択理由書で、UD で記載されてきたんですかね。

<委員>

全部ユニバーサルデザインですよ。

<会長>

UD ではなく、ユニバーサルデザインフォントということで、一般の方にも、器楽の方にもあ

りますので、そこを訂正します。

他にありますか。

<委員>

1枚目の最初の丸の、2行目3行目です。

教材が組織されてるんですけど、教材の組織とはどういうことなのかなと。2枚目の方には教材配置ってあるんですけど、教材が配置されるでしょう。

<会長>

「全学年を通して系統的発展的に教材が、組織ではなく配置されている。また、ねらいに即した関連教材が配置されている。」に訂正をいたします。

他にありますか。

<委員>

系統的発展的に教材が、例えば構成されているでもおかしくはないですよ。下は配置だと思うんですけど。

<委員>

構成の方がいいですね。

<会長>

では、「全学年を通して系統的発展的に教材が、構成されている。また、ねらいに即した関連教材が配置されている。」に訂正をいたします。

他にありますか。

<委員>

異議なし

<会長>

音楽についての、理由書はこちらで決定いたします。

理科の採択理由書（案）再配付

<会長>

理科の追加ということで、2枚目の最後ですね、内容的な特徴が追加されました。

これでよろしいですか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、決定します。

<会長>

それから、音楽ですが、今事務局の方から、音楽一般の理由書で、指摘がありました。

音楽一般の上から3つ目の丸で、「音楽を形づくっている要素については、各教材で表示されており、教材間・題材間のつながりや、関わりに気付く」っていうふうに書いてあるんですが、この間っていう字、これはこれではなくて、観察の観ではないかっていう指摘があったんですよ。どうでしょうか。

<委員>

教材同士の繋がりだと、この間ですよ。

題材同士の繋がり。

<委員>

文面からすると間です。

繋がりっていうことを強調するならこの間を取っちゃった方が。

<会長>

教材・題材の繋がりとした方が、間を取っちゃった方がいいですね。

美術調査部長入室

<会長>

美術部会の調査報告をお願いします。

<美術調査部長>

美術調査部会では、3社を調査しました。3社とも、学習指導要領や社会および現場のニーズに応える内容となっています。

まず、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための配慮についてです。

「日文」では、『美術の学びで3年間の成長を後押し』という明確な編集方針に沿った工夫が細

部になされています。各学年の発達段階を考慮した、系統だった題材設定が際立っており、美術で何を学ぶか、社会とどうつながっているのか、どうつながっていくのかを意識させる構成となっています。

次に、主体的・対話的で深い学びの実現のために工夫についてです。「日文」では、3分冊により、新たな気持ちで作品や題材と向き合えることが特徴です。各学年の目標を表現する表紙の作品から、連続して学びに没頭できるように作られているのも他社に見られない点です。

また、本調査部会では、本物から得る感動や情報は主体的で深い学びにつながる点を重視しました。次に述べる内容は、本来であれば、使用上の便宜に取り上げることですが、あえて述べさせていただきます。鑑賞題材『火焰型土器』で比較すると、「日文」は鮮やかで自然な色味と立体感あふれるアングルが素晴らしく、本物と見紛う再現性が見られます。また、『風神雷神図屏風』『唐獅子図屏風』では、それぞれを表裏にして両面とも折り目に沿って鑑賞できるよう構成し、実感的な理解を生み出すという造本上の工夫が見られました。また、『造形的な視点』や『表現のヒント』を示すことで発想を造形につなげる工夫がありました。ちなみに、「開隆堂」ではキャラクターを使って効率を高め、「光村」では『POINT』で造形的な視点が意識できるようになっています。何を示すポイントなのか明瞭な方が、生徒にも指導者にも使いやすいと考えます。

次に、題材の構成や教材の配列の特色についてです。3社とも、すべての表現活動で鑑賞と一本化しており、『やってみようか』という意欲を高め、学びの見通しをもたせています。「日文」では、いくつかの題材で『短時間でつくる』コーナーを設け、手軽に制作でき、それをタブレットで撮影・加工するなど、イマドキの生徒の感覚にマッチした活動が用意されています。これは、構成の工夫であり、主体的な学びにつながる仕掛けといえます。また、指導者にとっても、短時間で制作できる作品が増えることで、生徒の学びを多角的に評価するため助けになります。

また、「日文」では、生徒の考えを広げ、深められるような鑑賞素材が選択されています。報告書では、ジャポニズムを例として記載しました。「開隆堂」では尾形光琳、「光村」ではゴッホを主に取り上げていますが、「日文」は両方を取り上げ、双方の作品でジャポニズムが及ぼした影響を考える構成となっています。

最後に、用語や写真、動画・音声やアニメーション等のコンテンツなどについてです。

3社とも画像、動画、ワークシート等のコンテンツがかなり充実しています。扱う作品やアーティストには違いが見られます。「光村」と「日文」は、「開隆堂」に比べるとやや保守的という印象を受けました。「開隆堂」では、生徒に身近な親しみのある作品が目立ちます。現在活躍中のアーティストを取り上げているのが多い印象を受けます。ただ、最近、アメリカメジャーリーグの通訳者の犯罪により、道德の教科書が出荷前に変更を余儀なくされたという話もありました。評価が確定していないアーティストが多ければ多いほどリスクがあるように感じました。

また、3社とも、QRコードで読み取れる充実したコンテンツにより、個別最適なタイミング

で必要な情報が得られるようになっていきます。

美術調査部会では、現場で指導する2名の委員に、3社を比較してよい点をあげていき、それを項目・観点に振り分けて調査を進めました。部長である私は、委員のつぶやきをしっかり拾いながら、俯瞰して、より客観的な視点で調査をするように心掛けました。その結果、報告書をご覧いただければわかるように、『日本文教出版』の採用が適切であると評価いたしました。以上で報告を終わります。よろしくお願いします。

<会長>

ありがとうございました。ご質問などあればお願いいたします。

<会長>

いかがですか。なければ、質疑を終了いたします。

それでは、調査部長さんには、調査活動大変ありがとうございました。

美術調査部長退室

<会長>

それでは、審議に入ります。意見などあれば挙手をお願いします。

<委員>

全体的に、どこの会社もQRコードは少ないんですね。

教科書で見せるっていう感じなんですね。

<委員>

著作権の問題からすると、すごい値段ですからね。

<会長>

いかがでしょうか。よろしいですか。

<委員>

小学校は、結構作ったりするんですよ。造形活動の中で、描くよりも作ったりする活動が多いんですけど。中学校は、違う。感想ですけどね。

<会長>

小学校は、教科名が、そもそも図画工作って工作ってあるので、やっぱり作ることも大事にし

てるんでしょうね。

やっぱり中学校は美術ですからね。

では、特にないようですので、報告のとおり決定いたします。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

何かご意見はございますか。

<委員>

今までの流れからすると上から3つ目の「指導者にとっての使いやすさを工夫の」中で、他社との比較が出てるんですけど、他社との比較をあえて載せるのか。3社との表現と鑑賞といった一本化が中でスムーズな展開ができるが、「日文」では造形的な視点により学習を見通すことができる。

今までの報告書案、他社との比較、ここに明示はしてなかったかなって。上にも他社と比較するとできます。

<会長>

上から3つ目は、3社と違ってあまり入れずに、「表現と鑑賞の一本化がなされ、スムーズな展開が期待できるとともに、造形的な視点により学習を見通すことができる。」でどうでしょうかね。それに訂正をいたします。

他になにかございますか。

<委員>

異議なし。

<会長>

それでは、採択理由書を決定いたします。

技術調査部長入室

<会長>

それでは、技術の調査報告をお願いします。

<技術調査部長>

技術・家庭科「技術分野」の調査部会では、「東京書籍」、「教育図書」、「開隆堂」の三社を調査いたしました。共通している部分が多くありますので、それぞれの教科用図書の特徴について、項目ごとにご報告いたします。

まず、「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」です。三社とも、学習指導要領をもとに各内容AからDの構成は統一されており、技術分野の資質・能力を育成するための配慮が十分になされております。こちらの項目では、大きな違いや差は見られませんでした。

次に、「内容の程度及び取扱いについて」です。ここでは、2つの観点から調査いたしました。

1つ目は、「見方・考え方を働かせるための工夫」についてです。技術分野という教科は、小学校にはなく、中学校で初めて出会う教科となっております。そのため、本格的な内容に入る前のガイダンスはとても重要となってきます。そのなかで、資料が見やすく充実していたのは、「東京書籍」と「開隆堂」でした。特に、「開隆堂」では技術の役割や見方・考え方について、スプーンやはさみ、ボールペンなど身近な製品を取り上げ、具体的に分かりやすく解説するなどの工夫が見られました。

2つ目の観点は、「主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫」についてです。共通しているのは、単元あるいは題材で学習の流れが統一され、学習課題やキーワードをとおして、調べたり、考えたり、話し合ったり、発表したりする場面が設定されており、学習の見通しをもちながら、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫されていました。その中で、「開隆堂」は、生徒が関心・意欲をもって取り組めるようにするため、実習例が豊富に載って 있었습니다。基本となる実習から参考・応用的なものまで、多様な例が扱われていることが大きな特徴でした。

続いて、「内容の配列・分量」についてです。三社共通しているのは、どの内容も偏ることなくバランスよく配分されておりました。その内容を調査していく中で、「開隆堂」の教科書に特色が3つ見られました。1つ目は生物育成の技術で、森林の育成技術という小項目があったことです。森林を育成する意義や環境問題にも配慮された内容となっております。2つ目に、エネルギー変換の技術で、生徒が混乱しやすい「電気」と「運動」が小項目で分かれており、学習内容が整理・工夫されていました。3つ目は、情報の技術で、知的財産について小項目で取り扱わ

れていました。知的財産については、他社は1ページでとどまっていますが、「開隆堂」は4ページにわたり、著作物の保護や利用、考え方などに触れ、望ましい活用を考えられるように工夫されておりました。

最後に、「表記・体裁・資料」についてです。三社ともに、書体はすべてユニバーサルデザインフォントを使用し、可読性を高めるように配慮されておりました。また、QRコードについては、三社とも掲載されておりますが、内容が充実しているのは「東京書籍」と「開隆堂」でした。こちらの二社に大きな差はないものの、ナレーションが人の声で収録されているのが「東京書籍」、AIのような音声で収録されているのが「開隆堂」となっておりました。

以上の調査をもとに、技術分野調査部会では、ガイダンスが具体的で充実していること、内容の精選が生徒の実態に合っており、これからの社会に即した内容が充実していることを評価し、「開隆堂」が適切と評価いたしました。

以上で、報告を終わります。よろしくお願いいたします。

<会長>

ありがとうございました。

それでは質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<会長>

よろしいですか。なければ、質疑を終了いたします。

それでは、調査活動ありがとうございました。

技術調査部長退室

<会長>

それでは、審議をいたします。意見のある方、挙手をお願いします。

<会長>

よろしいですか。

それでは、報告の通り決定いたします。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

何かご意見のある方いらっしゃいますか。ではよろしいでしょうか。

<委員>

他社にはない以下の特色が見られたっていうのは、他社にはないからこれを選んだってことを読み取るんですか、特にこの特徴がこのよかったっていうような。

<会長>

他の教科でもこういった表現はあまり使わない方がいいだろうということで、他社にはないとか、ここだけであるみたい。とるようにしましょう。

各内容では、以下の特色が見られたっていう。他社にはないは削除。

他にありますか。

ではないようですのでこれで決定ということでお願いします。

家庭調査部長入室

<会長>

家庭部会の調査報告をお願いします。

<家庭調査部長>

各教科書の特徴について報告いたします。

「新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）」の主な特色について、4項目においてご報告いたします。

始めに、1の項目、学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択についての特色です。

よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するために、どのような配慮がされているかですが、目標や学習課題、題材ごとのキーワードが明確に示されており、身に付けるべき知識・技能がわかりやすく記載されています。

〈学習を深めよう〉の項目では、身近な生活をテーマとした課題から自分の考えをまとめることができ、思考力・判断力・表現力の育成につながるように工夫されています。

また、学習のまとめの〈生活に生かそう〉の項目では、学習したことを自らの生活で実践して、さらに生活をよりよくしていこうとする態度の育成につながる工夫がされています。加えて、調理例や、実習例が豊富で分かりやすく、発展的な内容の展開や家庭での実践にもつなげやすくなっています。

次に2の項目、内容の程度及び取り扱いについての特色です。

生活の営みにかかわる見方・考え方については、4つのマークで表記され、各編の最初に示されています。

また、見方・考え方を働かせることができる場面では、キャラクター「ミカッタ」が、見方・考え方を示唆する内容のセリフとともに記載されており、生徒が見方・考え方を働かせて思考できるように工夫されています。

主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫としては、複数の思考ツールが提示されています。導入や活動など、様々な場面で思考ツールを活用することで、主体的・対話的な学習を促し、深い学びにつなげることができるよう工夫されています。

続いて3の項目、内容の配列・分量についての特色です。

学習指導要領とは違い、教科書の配列は、生徒の発達段階に応じた指導計画の流れを考慮したB→C→Aの順となっています。

内容は、1編から6編に分けられており、1編でガイダンスと家族・家庭生活の学習の一部を配列、3年間の見通しを持って2編から5編の「自立」に関する内容を学ぶ構成となっています。

最後の6編は、幼児や高齢者の学習を含む「共生」に関する内容で、高等学校での学びや社会生活へつなげていく工夫が見られました。

生徒の発達段階に応じて、自立から共生へ向かう流れで構成されており、指導のしやすさを感じる構成になっています。

最後に4の項目、表記・体裁についての特色です。

書体はすべてユニバーサルフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインの観点から配色とデザインについても検討し、すべての生徒が使いやすい配慮がされています。ほぼ全ページに掲載した二次元コードにより、動画や資料、シミュレーション、ワークシート等が活用できます。シミュレーションコンテンツの「1日に必要な栄養素を満たす献立を考えよう」は複雑な食品群別摂取量の計算がわかりやすいと感じました。関連する内容について小学校家庭科や他教科書の関連ページが閲覧でき、教科のつながりを意識し、教科横断的に学びを深められる工夫が見られました。調理や被服実習、幼児の様子など写真よりも動画の方が理解が深まる動画コンテンツも充実しており、授業内で取り扱いやすい関連動画、活用しやすいシミュレーションコンテンツが多く見られました。

続きまして、「新 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する（教育図書）」の主な特色について、4項目においてご報告いたします。

始めに、1の項目、学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択についての特色です。

よりよい生活の実現に向けて、学習のはじめにある〈見つめてみよう〉の項目で、疑問に思ったこと、これまでの経験、やってみたいことなどを考え、学習意欲の向上につなげるような工夫がされています。各単元の活動では、〈調べてみよう〉〈考えてみよう〉〈やってみよう〉の項目で、自ら考え、調べ、実際の生活で実践してみるという課題解決につながる工夫がされています。

また、〈資料〉や〈発展〉の項目では、さらに詳しい知識や技能を知ることができ、発展的な内容を展開することができるようになっています。

次に2の項目、内容の程度及び取り扱いについての特色です。

生活の営みにかかわる見方・考え方については、題材の最初に〈自立度チェック〉があり、自分の生活を改めて振り返り、生活をさらに良くしていこうとするきっかけを作る工夫がされています。

また、単元ごとの導入〈見つめる〉の部分が、生活の営みにかかわる見方・考え方の視点をもとに構成されており、写真や一コマ漫画の場面を通じて、生徒が身近な生活から見方・考え方を働かせて気づきを得られるよう工夫されています。

主体的・対話的で深い学びを実現するための工夫としては、より深い学びを実現できるよう、生活と学習とのつながり、また、小学校家庭科とのつながりを意識した内容が示されています。

続いて3の項目、内容の配列・分量についての特色です。

学習指導要領のA→B→Cの順に配列し、最後に「生活の課題と実践」が設けられています。

いくつかの章のまとまりごとに、最初に〈自立度チェック〉、最後に〈章末のまとめ〉として確認問題を記載するなど、導入や確認の工夫が見られました。

また、章のまとまりごとに、課題解決学習のページ〈学びをいかそう〉が記載され、学んだことをもとに、課題を見つけ、計画し、地域や家庭での実践につなげようとする工夫が見られました。

最後に4の項目、表記・体裁についての特色です。

本文は、簡潔な文書になっており、明るく目に優しい色遣いになっています。二次元コードの掲載は教科書右下にあり、二次元コードの内容説明が隣に書かれていて活用しやすいと感じました。二次元コードのリンクページも分野ごとになっており選択しやすくなっています。「昼食の献立を考えよう 計算ソフト」は食品群別摂取量の過不足の計算がグラフで示されてわかりやすいと感じました。他社と比べると二次元コードの掲載は少なく、デジタルコンテンツには、動画も

ありますが、Web サイトやPDF 資料が多いと感じました。また他教科との関連コンテンツはなく、左利き用の生徒向けの動画は見られませんでした。

最後に「技術・家庭 家庭分野 自立しともに支えあう生活へ（開隆堂）」の主な特色について、4 項目においてご報告いたします。

始めに、1 の項目、学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択についての特色です。

扱いやすい実験や実習例が多く記載されており、わかりやすい図解などで、知識・技能の定着につながるよう工夫されています。

また、日常食の調理では、電子レンジや加工食品を活用した調理例や、災害時の調理、そのほか題材ごとにも〈発展〉のページがあり、基礎的・基本的な内容を学んだあと、発展的な内容を扱えるよう工夫されています。

〈生活の実践と課題〉では、様々な情報収集の仕方や整理・分析の仕方、まとめ方の例を示し、自分に合った方法で実践できるよう工夫されています。

次に 2 の項目、内容の程度及び取り扱いについての特色です。

ガイダンスの部分で、生活の営みに係る見方・考え方、主体的・対話的・深い学びについて具体的に示され、家庭分野での学び方と身につけさせたい力について明記されています。

各題材ごとに〈やってみよう〉〈もっと知りたい〉〈考えてみよう〉〈調べてみよう〉の項目で様々な課題が取り上げられ、課題解決に向かう力を養い、より深い学びにつなげるような工夫がされています。

続いて 3 の項目、内容の配列・分量についての特色です。

学習指導要領の A→B→C の順に配列し、最後に「生活の課題と実践」が設けられています。

学習内容に関して、参考となる内容や資料・解説が豊富に掲載されており、生徒が興味・関心を持って学びを深められるようになっています。

また、ページの下には、学習に関連し、さらに知っておきたい内容や情報を〈豆知識〉として記載し、知識量を増やす工夫が見られました。

最後に 4 の項目、表記・体裁についての特色です。

文字は読みやすい書体・大きさに生徒の発達段階に配慮し、ユニバーサルデザインフォントで誰でも使用しやすくなっています。また、カラーバリアフリーの観点から弱視の子どもたちにも読み取りやすい配慮を行っています。二次元コードの掲載は他社よりは少ないですが、二次元コードを読み取ると、分野ごとに分かれていて選択しやすく、デジタルコンテンツ内に記載ページが書かれていて活用しやすいと感じました。動画資料もありますが、教科書掲載資料を PDF 化したものや Web サイトが多いと感じました。他教科との関連コンテンツはありませんでした。調理

被服実習動画はわかりやすく、A 家族・家庭生活、C 消費生活環境はロールプレイング動画も他にはないものでしたが、献立作成のデジタルコンテンツがありませんでした。

以上、3社の特徴についてご説明いたしました。

4項目について比較したところ、調査部会では「東京書籍」の教科書が適切ではないかと考えております。以上となります。

<会長>

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

「東京書籍」以外は学習指導要領の順番になっている。

「東京書籍」は指導計画に合わせてると書かれている。授業をやると、やっぱり指導計画の方で進めてった方がいいだろうという判断ですか。

<家庭調査部長>

やりやすいかと思います。

<委員>

他にありますか。

ではないようですので、質問を終了いたします。

家庭調査部長退室

<会長>

それでは、審議いたします。ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

<会長>

よろしいですか。では、報告のとおり決定いたします。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

いかがでしょうか。よろしいですか。では、これで決定いたします。

英語調査部長入室

<会長>

英語部会の調査報告をお願いします。

<英語調査部長>

今回の教科書調査分析では、6つの教科書会社を扱いました。

各社とも、デジタルコンテンツを充実させ、一人一台端末を活用した学習に対応できるようになっておりました。また、小学校英語と円滑に接続できるような配慮や、身近な事柄から徐々に社会的な話題へ視野を広げるような題材配列、目的や場面、状況に応じた言語活動が配慮されておりました。

その中から、調査委員会では、「2 東京書籍の New Horizon」と、「9 開隆堂の Sunshine」を推薦いたします。

「New Horizon」の大きな特色は、充実したデジタルコンテンツと、単元のまとまりを重視した言語活動が用意されていることです。

第一のデジタルコンテンツに関しては、題材の導入用動画や、基本文法の解説動画、単語クイズなど、「分かりやすい授業」を実現するための機能が豊富にあります。また、生徒が自分の理解度に応じて、音読再生のスピードを調整したり、日本語訳をふりがな付きで表示したりでき、個別最適な学びにも対応しております。

第二の言語活動については、各単元の最後に用意されている「学びのゴール」に向かって、段階的に必要な表現を学習できるようにしてあります。最初は場面・状況を明らかにした聞き取り、次に3回視点を変えて行う読み取り、そして最後には自分の考えをまとめてペアやグループで伝え合う活動が設定されています。学習が進むにつれて徐々に学びが深まり、友達と協働的に学ぶことができるように構成されています。機内放送や電車の乗り換えなど日常的な場面や、絶滅危惧種や東日本大震災などの社会的な話題が取り入れられ、学ぶ意欲を引き出す工夫もなされていました。

「Sunshine」の大きな特色は、「英語は楽しい」と思わせる紙面構成と、思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の設定です。

第一の紙面構成ですが、単元の導入は漫画形式で、これから学習する表現が、どのような場面で使われるのかを分かりやすく紹介しています。中学3年生になると英語の量もかなり増え、学習に抵抗感をもつ生徒も出てきますが、「Sunshine」は目に入る英文量が抑えられ、大きな写真やイラストで興味をひきつけるよう工夫されています。

第二の思考力・判断力・表現力を育成する言語活動としては、各単元の最後に必ず位置づけられている Retell が挙げられます。これは本文の内容を整理して自分なりに要約して伝える活動ですが、紙面には要約するためのヒントとなるイラストやキーワードが掲載されており、思考力・判断力・表現力を段階的に育成できるよう配慮されております。さらに、各学年3回ずつ配置されている統合的な学習では、ペアやグループでの活動が設定され、友達の考えをもとに自分の考

えをさらに深めることができるような構成になっております。

両者ともすぐれた教科書ですが、最後に授業で扱う上での違いをお伝えします。「Sunshine」は教員経験が浅い先生や英語を苦手とする生徒にも使いやすい印象があります。教科書の流れに沿っていけば分かりやすい導入ができ、コミュニケーション活動では特別なワークシートを用意しなくて、教科書に書き込めば自分の考えをまとめ、表現しやすいように構成されております。反面、文章量が抑えられているため、同じ3学年の「New Horizon」が各単元で約350語～450語の英文を扱っているのに対し、「Sunshine」では250語前後の文章量になり、教科書後半の読み物資料で語数を補う形となっています。英語を得意とする生徒には、時間制限を設けて読ませるなどの発展的な課題を与え、習熟度に応じて力を伸ばしていけるような配慮も必要になる場合もあるかと思います。

以上でございます。

<会長>

ありがとうございました。

2社ですね、「東京書籍」さん、「開隆堂」さんについてはかなり詳しいご説明があったんですが、「三省堂」、「教育出版」、「光村図書」、「啓林館」についても、ごくごく簡単で良いので、特徴とか、特に優れているところがありましたら、それぞれちょっとお話をいただきたいと思います。

<英語調査部長>

「New Crown」は即興的なやりとり、言語活動が重視されておりました。

巻末にロールプレイのシートがついており、生徒が役になり切って、その場に応じた会話がなされるような工夫がされておりました。

次の「One World」は、日常的な場合について、どのようなやりとりをするのか考える場が設定されておりました。また、思考ツールを用いて、その場に応じて、自分の考えを整理して話す活動にも工夫が見られました。

次の「Here We Go!」に関しては、一番の特徴は3学年一続きのストーリーになっていることです。生徒が関心を持ちながら、学びを深められるような、3年間を見通した工夫がありました。

最後に「Blue Sky」になります。「Blue Sky」に関しても、思考ツールを用いて単元をまとめるコーナーが用意されておりました。また、単元の帯活動として、スモールトークの話題が、提示しており、教員にも扱いやすいと思いました。

<会長>

それでは質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

2社出していただいて。先生は特に、どちらなんですか。

<英語調査部長>

そうですね。

「Sunshine」は苦手な子にも、まず入りやすい紙面構成はすごく魅力的だなというふうには感じます。

<委員>

これって、前はどっちなんですか。

<英語調査部長>

前は「東京書籍」。

<委員>

これって道徳と同じで、選んで、1年間違う教科書とかそういうふうなことは、英語もあるんじゃないかなと思うんですが。

<事務局>

前は「東京書籍」の「New Horizon」を選んでいました。

<委員>

どちらかって言われれば、英語部会としてはどちらになりますか。

<英語調査部長>

「東京書籍」の「New Horizon」は、デジタルコンテンツがたくさんあったものの、使いこなせるかそれを全部使いこなせるかというちょっとそういう意見も出ました。

やはり3学年になると開いた印象が大分「New Horizon」だと、難しさがあるので、やっぱり「Sunshine」も魅力的だなという話が出ました。

<委員>

新2年・3年は「東京書籍」なんですよ。新1年生が新しい教科書会社なんですよ。

<会長>

できれば、調査部会の調査研究を尊重したいと思うんですけども。

どちらが一押しですとで言っていた方が、我々としては、ありがたいです。

<委員>

そのあとの協議しやすいので、部会として、どちらがよいのか。

<委員>

1年生で入るとなったらどっちでも構わない。

3年生になると「New Horizon」の方がちょっと難しいっていうイメージ。

<英語調査部長>

実際に授業をされている先生もちょっと、どう導入で使うかとか、なかなか難しい面もあるという意見が出ました。

<委員>

そうすると今の2年生と3年生はそれをずっと難しいまま3年間やるわけですね。

「Sunshine」を今度を選んだ時に、その成果っていうか、今の3年生と、次の1年生が3年生に上がったときに、どういうふうになっていくのかっていうのが、すぐには出るわけないとわかってます。

でも、その使った先生方から考えると、やっぱり「New Horizon」は3年生になるとちょっと難しくなってるだろうというようなことだってことですよ。

受験を考えるとどうなんすかね。

<英語調査部長>

これも話題には出ました。

「New Horizon」の方が、文章の各単元あたりの個数が多いので、茨城県の入試は、長文が3つ出て、文章量が多いっていうのに対応するために、やっぱりそれぐらい必要なのかなっていう意見もちろん出ました。

<委員>

「Sunshine」の方は書き込めばいいようになってるんです。

<英語調査部長>

東京書籍はデジタルコンテンツの方に書き込めるワークシートが用意されておりました。

<会長>

調査部会では、4人のうちの2人が「開隆堂」で、2人が「東京書籍」みたいな別れ方ではなかった。

<英語調査部長>

どちらにもいいところがあって、心配なことは、それぞれある。
受験に対応できるかとやっぱり内容に興味を持って引き受けられるかという。

<会長>

なかなか甲乙つけがたいんですね。採択理由書はどうしたんですか。

<英語調査部長>

2つ作りました。

<委員>

英語の先生がどう教えていくかっていうところなので、部長の先生のご意見が一番やっぱり、必要なんですけど。

<英語調査部長>

私個人的に言って良いのであれば、「Sunshine」の方が、入口が、興味を持たせられれば、その後、幾らでも難しい発展的な方にも広げられると思うんですね。

<会長>

調査部長としては、本当に拮抗してるんだけど、「開隆堂」さんを、第1候補として、あげますということによろしいですかね。

<英語調査部長>

はい。

<委員>

今のを、これにこう変えますよ。変えた強い理由というか、こっちの方がやっぱりいいんだよっていうなものが理由書の中にないと、同じでもっていう話には、いけないと思うんですけど。

<委員>

今部長さんが言ったことが、最後の理由だってことですよね。

<委員>

入口をすっきりさせたいっていう。

英語の先生が、それぞれ発展的なものに関しては、もうそれぞれの力でどんどん上げられる。ただ、英語好きにならないと、厳しいよっていう話です。

<会長>

英語の教科書って、第4採択地区は、ずっと「東京書籍」が続いてきたんですか。

<委員>

はい。

<会長>

他に何か質問ありますか。では、質疑を終了します。

英語調査部長退室

<会長>

それでは、審議をいたします。ご意見ある方は挙手をお願いいたします。

<委員>

先ほど聞きながら、僕が一番の課題で、現場の状況で、変更能耐えてやっていけるのか。そんなところがきつと、部会でも大分悩まれているのか、結論めいたものがあってなかったんじゃないかなと思うんですけども。最終的には、「開隆堂」。

我々はその例えば、1年生と2年3年生が違うということに対して、どういうふう考えていくかっていうところでしょうか。

<委員>

英語の場合には系統性から考えていくと、教科書が同じでなくてもきつといいんだと思うんですよね。

算数数学みたいに、必ず系統的にこうやらなくちゃいけないってことじゃないので、子供の興味関心に左右されるような教科の一部だと思いますから、そんなに現場は、混乱はしないのかなっていうところですけど。

<委員>

小さな中学校でいくと、2、3年生を教えるときはこっちで、1年生はこちらをって言ってスタートしていくわけです。難しいですよ。

<委員>

甲乙を付け難いって言って、悩まれたんじゃないかなと思うんですけど。だから、その英語の特殊性、今回、特殊性がやっぱりあるんだなあと。

<会長>

しばらくずっと「東書」でやってきて、ここで、「開隆堂」に変えると、かなり積極的に変えたっていうかなり説得力のある根拠がなければいけないと思うんですね。

そこは理由書にあらわれていればいいんですけど、そこが曖昧だと、どうして、変えてしまったのっていう現場の先生方の声がたくさんありそうなの。

<委員>

難易度ってのがありましたけど、難易度ってのはあまり変える意味合いとしては弱い気がしますよね。

<委員>

理由書を両方見せてもらうことができないですか。

<会長>

採択理由書を見てからですね。

<委員>

選んだ先生方も、甲乙付け難いって両方が作られたと思うんですよね。

採択理由書（案）配付

<会長>

2社並べて、いかがでしょうか。

<委員>

調査書読んでも、理由書読んでもやっぱり、なんていうのかな、今の当市の課題としても、なかなか文法的に身につけていない子供たちがいるっていうと、前年度の学習をもう1回やり直そうっていう部分が出てくるとすると、この「東書」の書かれている内容のように必ず全学年のものが導入で、練習されてるっていうことであれば、当市としては、「東書」の方がそのままいいのかなっていう部分があります。

<委員>

3学年が難しいっていいですけども、やっぱり1年2年で蓄積していくわけでしょうし、その意味からすると、あんまり難しいってのは、あんまり選択肢の中に入れなくていいんじゃないかと。むしろ、この英語の特殊性を考えたときに、今まで通りの、考え方でいいんじゃないかなと。

「東書」で良いんじゃないかなって思いがありますんで、調査委員も本当に、差がないんだというようにことであれば、そこでそういう選択しても全然問題ないんじゃないかな。

<委員>

自分が英語を習った時代とは比較にならないんですけど、ちょっと単語を学ぶとか、文法を学ぶっていう基礎的なもの、もちろんしっかりやるって当然なんですけど、今はどっちかっていうと表現活動、会話を楽しむとかその表現活動重視のところがあるので、それをサポートするような教科書がやっぱり望ましいのかなという部分を感じて、比較してもそんなに、迷ってるように、大差はないのかなと思います。

そうすると、やっぱり、先生の指導のしやすさだと、やっぱり今までの会社のやつを用いた方が、学び直しももちろんしやすいだろうし、1校当たり、英語の先生は、当市は1人ないし2人なので、その先生が次年度、指導するときにやっぱり同じ会社の方がやりやすいのかなと。そんな気はします。

<委員>

まさしくそうだと思うんで。

一気に変えられるんだったらば、「Sunshine」でもいいでしょうけど、片方が残ってるっていうことになってくると、先生方も、2冊持つわけですよ。1年生はこれだよ。2年生はこっちだよ。

先ほど、ここでも「東書」の方でもこう改良されているよっていうふうに書かれてるとありますので、全く変更はないわけではないので、「東書」じゃないのかな。こっちが本当にすごいって文章ではなさそうなんです。

<委員>

いかがでしょうかね。他の委員さんいかがですか。

大体今、教育長さん方に、言ってもらったんですけど。

<会長>

保護者代表の方は、どうでしょう。

<委員>

兄弟がいる家庭とか特にそうだと思うんですけども。

例えば姉が、「New Horizon」で勉強してて、2年経って、妹が入学して、そうすると、多分お姉ちゃんに聞くとと思うんですよ、どういう勉強してたの。ちょっとそこで教科書違っちゃうと、ちょっと話がかみ合わなくなる。

こちら見てみたら、「Sunshine」も、すばらしい教科書で、究極の選択でありますけど、同じ教

科書の方がいいのかなと。

<会長>

積極的に変えるよりも、変えないことの方のメリットが、今の話なんですけどそちらが何か大きいような私も気がしますし、「東京書籍」で行きましようか。

<委員>

はい。

<会長>

それでは、「東京書籍」ということで決定して、この理由書は、「東京書籍」のこの内容でいかがですか。よろしいですか。

訂正はありませんか。「東京書籍」の採択理由書を採用します。

<委員>

異議なし

道徳調査部長入室

<会長>

それでは、道徳の調査報告をお願いします。

<道徳調査部長>

道徳部会では、発行されている7つの出版会社の教科書について、詳細にわたって比較、検討をいたしました。その調査内容について、調査報告書をもとにご説明します。

第1項目としまして、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めるために、どのような配慮がされているかにつきましては、各出版会社とも、「いじめ防止」や「多様性」、「SDGs」、「情報モラル」等の現代のさまざまな課題を教材とし、自分との関わりで捉えたり、多様な視点や立場から議論したりすることを通して、人間としての生き方について考えが深められるよう配慮されていました。

第2項目としまして、「考え、議論する道徳」の実現のために、どのような工夫が見られるかということにつきましては、各出版社とも、生徒が問題意識をもてるように、日常生活に関連したり、漫画を取り入れたりした教材を設定していました。また、学習活動の中に、役割演技、ロールプレイ等の体験的な活動や考えを可視化する思考ツールの活用、話し合いを深めるための手立て等が提案されていました。加えて、道徳的価値について考えを深める発問も示されていました。さらに、二次元コードから、関連動画やワークシート、思考ツールを読み取り、様々な資料を活

用して、「考え、議論する道徳」を実現するための多様な配慮や工夫が見られました。

第3項目の発達段階に応じた教材の配列については、「いじめ問題」や「生命の尊さ」、「SDGs」、「多様性」など、現代的な課題に重点を置いて、幅広いテーマで学習できるように配慮がされていました。また、重点を置いた項目についてユニットが組まれ、多面的・多角的に考えられるように工夫されていました。さらに、3年間を通して、同じ時期にユニットを組んだり、長期休業明けにユニットを配置したりと、各出版社の特色が見られました。

第4項目としまして、用語や写真などの使用上の便宜等についてはどのような工夫が見られるかでは、各出版会社とも、挿絵や写真・図において、ユニバーサルデザインの観点からの配色や大きさ等が視覚的に捉えやすい工夫や、スラックスの女性や車椅子を使用する生徒の姿を描き、LGBTQや多様性に配慮されていました。調査した項目を包括して考えると、各出版会社とも、すばらしい教科書で、優劣は付けがたいと感じました。

その中で、他の出版社より「特別の教科 道徳」の学びを深めるための多様な支援や一人一台端末を活用した主体的な学びや多様な学びを支えるためのデジタルコンテンツが充実している点、生徒が主体的かつ意欲的に学習できるような構成になっている点、教師が授業を構成しやすい点等から、総合的な視点で見ると「東京書籍」のものが、学校現場の実態に応じ、生徒の学びを広げ、深めるために適しているのではないかという意見に至りました。以上です。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

前回も「東京書籍」ですか。

<事務局>

前回は、「日本文教出版」です。

<委員>

去年の小学校と同じになるってことだね。部長の方はもう、「東京書籍」がいいだろうという話ですよ。

<道徳調査部長>

はい。

<委員>

「日文」は、ノートがセットで、これは、教科書として扱うってことなので、多分現場では、これも教科書と同じように、全部使わないといけない。

このノートに関しての議論なんかいかがですか。

<道徳調査部長>

道徳のノートについては、非常に有効であったという意見が現場から出ているということは確認しております。

このノートを使うことによって、考え議論する道徳がどのようなものかということが、先生たちが、見通しを持てたということがありますが、今、学校でも研修が進みまして、考え議論する道徳の方向性というのが、ある程度わかるようになってきたというところで、先生方もワークシート等を自分なりにアレンジしたりという幅が出てきたということがございます。また、今はデジタル端末で読み込んで、そこに書かせて、デジタルのデータでの双方向のやりとりということで、データで保存するというようなこともありまして、1人1台端末をより活用した道徳をというふうに考えまして、このように考えさせていただきました。

<委員>

デジタルコンテンツの多さは「東京書籍」が多かったってことですか。

<道徳調査部長>

デジタルコンテンツは先ほどの道徳ノートのワークもしっかり入ってましたし、さらによかったのが、NHK for school に飛ぶことができるということと、教科を横断的に他の教科の教科書ともリンクすることができたというようなところが、コンテンツの多さというふうに考えました。以上です。

<会長>

他に質問はありますか。

<委員>

今言われたのが、その他の教科書にはない特徴だっていうことですか。

<道徳調査部長>

特にNHK for school に飛ぶということは非常にいいんじゃないか、効果的ではないかという意見が出ました。

<委員>

この1年生からこれになるってことで、もしこれになったときに。

<事務局>

新1年生が新しい「東京書籍」を使いまして、2年生3年生は、「日文」の新版の教科書を使える形になります。

<委員>

そういう事だね。次の年は。

<事務局>

今いる中学生が卒業するまで「日文」の教科書を使います。

<委員>

小学校6年生は「東京書籍」。小学校5年生は「東京書籍」。順次変わっていくわけですね。英語と違って、その学年ごとのワンサイクルっていうイメージで考えれば、変えることは可能だ。さっきの英語とはちょっと違う。

<会長>

他に質問はありますか。なければ、質疑はこれで終了いたします。

調査部長さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

道徳調査部長退室

<会長>

それでは、審議に入ります。ご意見をお願いいたします。

<委員>

道徳の教科書が初めて、導入されて、大分この会議でも時間かけて議論されたときに道徳ノート、「日文」さんの道徳ノートがあるからいいんじゃないかなっていう考え方と、いやそうじゃないんじゃないかっていうのが、あったんですよね相当時間かけて。

それで、あのときは、初めて道徳の教科書が導入されるので、やはりノートがあった方が、先生方もやりやすいんじゃないかみたいな議論が結構あったんですけど。

先ほど説明があったように、大分もう導入して行われてきましたので、議論する道徳っていう考え方からすると、このノートから少し離れた先生方が結構出てきてるんですね。

ノートがあると、教科書と同じですから、使わなくちゃいけないところで、大分悩まれてる現実があって、実はICTで、議論して、いろんな考え方があってそれを集約していくようなそういうソフトがあって、大分それが、面白いですね。意見を出し合いながら、それが画面にどんどんこう集約されて、最終的に分かれていくような、それが瞬時にグラフ化されていくようなものがあるって、非常に面白い道徳の授業をされていますので、そういった方からすると、ノートにあ

まり縛られなくてもいいんじゃないかっていうふうな思いが私にはあります。

つまり、「東書」でいいんじゃないか。

<会長>

他にどうでしょうか。

<委員>

最初はノートがあった方が使いやすいんじゃないかってスタートしたけども、今このデジタル的なものっていうのも出てきて、学び方も変わってきたっていうことで、部長のさんの方もいろいろ考えてきたということと思うので、教科書がね、「日文」と、「東書」さんにはなるかもしれませんけども、いいんじゃないかなっていう。

<会長>

特になければ、「東京書籍」に決定します。

<委員>

異議なし

採択理由書（案）配布

<委員>

これあれですね、前の教科を考えれば、そのUDフォントのUDをユニバーサルデザインでってことで。

<会長>

漫画って日本語だから漢字でいいんですよ。

<会長>

何か他にご意見はございますか。よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

特別支援教育調査部長入室

<会長>

それでは、特別支援教育部会の調査報告をお願いします。

<特別支援教育調査部長>

それでは、特別支援教育調査部会からの報告をいたします。

A 3 判の調査報告書をもとに主に変更図書を中心に説明いたします。よろしくお願いいたします。

報告に入る前に、この特別支援学級教科用図書は、毎年選定を実施することとなっています。根拠となるのは、「学校教育法附則第 9 条」及び「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」及び「その施行令」となります。

特別支援学級で使用する教科用図書は、市町村教育委員会で種目ごとに複数採択します。

種目とは、教科用図書の教科ごとに分類された単位（教科用図書無償措置に関する法律）とありまして、結局のところ教科のことです。

また、検定教科書及び文科省著作の教科書の採択期間は、特別に事情がない限り 4 年となっております。小学校用教科書は令和 6 年度から採択され、中学校用教科書は令和 7 年度から採択されます。そのため、令和 7 年度の小学校は、令和 6 年度と同じもの、中学校は採択されたものを選定することを基本とします。

ここで、文科省著作の「特別支援学校（知的障害）用教科書」は、☆の数により、使用する学年が基本的に決められていますので、それに従い選定しています。

では、調査結果報告書について説明いたします。

調査結果報告書をご覧ください。教科名の横に（ ）書きで A 型と B 型と入っているかと思っています。A 型は、障害の程度が比較的軽い児童生徒を対象としています。B 型は障害の程度が比較的重い児童生徒を対象としています。

基本的には、A 型は検定教科書当該学年用及び検定教科書下学年用から主に選定しています。B 型は特別支援学校用文科省著作教科書及び一般図書から主に選定をしていますが、教科の特性や状況により検定教科書を選定する場合もあります。

一般図書とは、書店で販売されている書籍、学習内容ごとに選定していますので複数冊選定しています。

なお、選定にあたりましては、検定教科書及び文科省著作の教科書は、特別に事情がない限り、変更はありません。

一般図書に関しましては、昨年度選定したものをもとに、観点や児童生徒の障害の程度や実態に合っているものであるかや通常の学級との交流の状況などの点を十分に考慮し、実態等に即し

ていれば、これまでの継続の状況を考慮し、変更なしで調査部として選定いたしました。

しかしながら、一般図書に関しましては、絶版になってしまったり、在庫がなかったりして、令和7年度の供給が不可能なものが出てきますので、それに関しては、別の一般図書を調査し選定いたしました。

では、まず小学校教科用図書について報告いたします。

令和6年度と教科用図書が変更のない教科について、教科名を確認いたします。

国語・書写、算数、音楽、特別の教科道徳となります。

社会については、選定し直した使用教科書がありますので報告いたします。調査報告書の1枚目をご覧ください。B型の2番目の一般図書です。こちらは今年度まで使用した名人はっけんシリーズ④にセットで選定しました。身近な職業について写真や短い文章で分かりやすく構成されています。学校生活で度々課題とされる新聞の書き方についても載っており、指導の際に役立つため選定しました。次にB型の5番目の一般図書です。「名人はっけん！まちたんけん⑤そだてる・とるひと（学研）」を選定しました。今年度まで使用していた「みぢかなかがくシリーズ町の水族館町の植物園ーさかなやさんとやおやさんー（福音館書店）」は、絵による表現が豊かで、興味をもって読むことができる内容でしたが、農業や水産業の仕組みについて、より詳しく学べる本が他にあったため、内容がよくまとめられている図書を選定しました。

続いて調査報告書の2枚目をご覧ください。社会地図B型の一般図書です。今年度まで使用していた「3～6年につぼんちず絵本（戸田デザイン研究室）」は、日本を絵地図にしてわかりやすく表していますが、地方ごとの地図が、紙面の都合上傾いて提示されていて、北が真上に配置されていません。全ページひらがな表記でわかりやすい反面、地図の特性に欠けるため除外しました。

次に、理科について報告いたします。理科のB型で、今年度まで使用していた一般図書の「学研の図鑑 LIVE⑫地球」については供給不可能のため除外しました。他に選定している図鑑の中に地球の内容が含まれているため代替りのものは選定しませんでした。

続きまして、生活について報告します。3ページをご覧ください。今年度使用していた1年生の生活は☆が1つで、ほとんどひらがなの文字が入っていませんでした。今回の選定においては、☆2つにすることで、簡単な文を教師と一緒に読み進めながら生活面の自立を促す内容になっているため選定しました。同じく、2年生も☆2つから☆3つに変更いたしました。

次は図画工作について説明します。4ページをご覧ください。B型の3つ目「はじめてのこうさくあそび（のら書店）」を選定しました。短時間でできる作品が写真やイラストで紹介されており、わかりやすいためこの図書を選定しました。同じくB型5つ目の「作ってみよう！リサイクル工作68」については、今年度使用していた「3・4年あそびのおうさまずかん⑫リサイクル工作」が供給不可能になるため、対象学年を3～6年に広げました。

続きまして、家庭科について説明します。今年度使用していた「5・6年ひとりでできるもん！

⑥だいすきおやつ作り」は揚げ物料理など小学生には難しいレシピが入っていたため、それに代えて家庭B型2つめの「はじめてでもかんたん！小学生のお料理レシピ」を選定しました。火を使わないレシピからフライパン調理まで写真入りで見やすい図書を選定しました。

次は保健について説明します。5ページをご覧ください。今年度使用していた「体験を広げるこどものずかん⑨からだとけんこう」は既に選定されている保健B型3つめの「からだのしくみ絵じてん」と内容が似ていました。特に「心」にも焦点を当てていて、マンガとともに解説やセルフチェックなどが載っている図書として1つに絞り、後者を選定しました。

外国語について説明します。今年度中学校で使用していた「ことばのえほんABC（あかね書房）」「えいごえほんぞうさんのピクニック（あかね書房）」は、発達段階に応じて活用できると思われるので、小学校外国語B型3つ目と4つ目へ移しました。イラストを用いて分かりやすくなるように配置されており、発音もカタカナで表されています。

小学校教科用図書についての報告は、以上となります。

それでは、中学校教科用図書について報告いたします。

令和6年度と教科用図書で変更のない教科は、国語・書写、社会の地図、数学、音楽、保健体育、特別の教科道徳です。

社会（地理的分野）、（歴史的分野）、（公民的分野）、地図、理科、美術、職業・家庭、外国語について、選定し直した教科用図書がありますので報告いたします。

まず、社会の地理的分野です。1枚目地理的分野のB型の6つめ「地球一周！世界の国ぐに大図鑑（河出書房新社）」をご覧ください。この図書は、世界各地の国々の基本的な情報の他に、産業や農業、伝統工芸、風習など幅広い知識が多くの写真で紹介されています。

同じく7つめ「るるぶ 地図でよくわかる都道府県ワークブック」についてです。なぞり書きやシール貼りなど、取り組みやすい構成になっています。

次に、社会の歴史的分野です。今年度使用していた「新訂ジュニア地図帳こども歴史の旅」は、地図の表し方が、赤道が真横に一直線となる見慣れた形ではなく、北半球を中心に捉えてあり、複雑さを個人では調整しづらいことから除外しました。それに代えて、「世界の歴史できごと事典」を選定しました。世界史の出来事1つに対して、見開き2ページに簡潔にまとめられており、絵や写真の掲載、さらに説明文の漢字にふりがながついていて、学習で読み進める際のつまずきが少なくなり、理解しやすいと思われます。

同じく社会についてです。より障害の程度の重い児童の指導に適している☆本を2冊加えました。

次は理科についてです。以前B型で選定していた学研プラス「学研の図鑑LIVE 植物」と「学研の図鑑LIVE 人体」が供給不可のため、成美堂出版「やさしくわかる小学生の理科図鑑」と「講談社の動く図鑑MOVE 人体のふしぎ」を選定しました。どちらも写真やイラストを多く使い、分かりやすく掲載されています。

美術について説明します。前年度のポプラ社「あそびのひろば1 はんがあそび」に代え、こ

れまで取り入れていなかった鑑賞についての一般図書を選定しました。興味をもって世界の傑作を鑑賞することができ、美術への関心が深まるようになっていきます。

続きまして、職業・家庭についてです。前年度は「お料理大好き！新・こどもクッキング」が選定されていましたが、材料や工程が視覚化されている成美堂出版「小学生のお料理レシピ」を選定しました。さらに岩崎書店「やさいのうえかたそだてかた」に代え、開隆堂出版の「職業・家庭たのしい職業科」を選定しました。園芸だけでなく、多岐にわたって将来の夢につながる内容の図書になっています。

中学校教科用図書に関しての説明は以上となります。

全体的に見直しを図り、現在の教育事情を鑑みた選定を行いました。

最後になりますが、この場を借りまして、調査部員が協力して滞りなく調査を実施していただきました。感謝いたします。

また、多数の一般図書の在庫や絶版等の情報を事前に調査いただいた事務局の皆様も大変だったかと存じます。本当にありがとうございました。

以上で、令和7年度使用小中学校特別支援学級知的障害者用図書の第4採択区調査部会の報告を終わります。

よろしくご検討をお願いいたします。

<会長>

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<会長>

いかがですか。では報告のとおり決定いたします。

特別支援教育調査部長退室

採択理由書（案）配付

<会長>

何かご意見はございますか。

なければ、こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

選定結果の配列なんですけど、1番2番は小学校で3番4番も、小中一緒ですかね。

で、5が中学校が来て6がまた小学校に、7が中学校。5と6を入れ替えても大丈夫であれば、内容は別に大丈夫ですけど、最初に小学校がきて、中学校がきて、また小学校ってなので、

ただ配列だけならば、3と4は、中学校と小学校一緒であれば、3、4を一番下に持ってきてもいいのかなと。

まずは小学校だけ、次が中学校だけ共通のものであればそれが最後っていうのはどうかなと思ったんですけど。

<会長>

並べる順番を、何かこう、規則性を持ってっていうか、カテゴリーごとに順番に並べるっていうふうにしてもらうということでお話ください。

<会長>

他にございますか。

それでは、順番だけを変えらるということ、こちらの採択理由で決定いたします。

以上で、採択についての審議・議決は終わりにいたします。

続きまして、小学校用教科用図書について確認をさせていただきます。

では、事務局から説明をお願いします。

小学校教科用図書選定結果（案）を配布

<事務局>

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同施行令により、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、特に事情がない限り4年となっております。小学校用教科用図書は令和6年度から採択されており、現時点では特段の事情がないと思われますので、令和7年度は今年度と同じものを採択することとなります。

<会長>

ご質問ありますか。よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、（案）をお消しください。

続いて、採択結果及び理由等の公表について審議いたします。事務局より説明をいたします。

<事務局>

採択結果及び理由等の公表について説明いたします。公表について、要綱5ページ規約の「第5章 議事録及び資料の公表」をご覧ください。情報開示については第14条のとおりでございます。公表に関しては、第15条に述べられているように、当該教科用図書の種類、当該教科用図書を採択した理由、第12条の第2項の資料(調査報告書)、協議会の会議の議事録、以上4点となります。

この公表については、「当該教科用図書の種類」「当該教科用図書を採択した理由」はデータで各教育委員会に送付しホームページ上にアップロードしていただきます、「調査報告書」、「議事録」は事務局である城里町教育委員会でアップロードします。

また、「議事録」に関しては城里町で取りまとめた後、各教育委員会に確認をしていただき、公開したいと考えております。そのため、規約には「速やかに」とありますが「当該教科用図書の種類」等のアップロードより、遅くなることと思いますのでご了承いただけましたら幸いです。

以上です。審議のほどよろしく願いいたします。

<会長>

事務局より公開について説明がありました。教科用図書の種類については、各教育委員会でアップをしていただきます。そして、資料、協議会の議事録については、事務局である城里町でアップいたします。そのようなことでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、第4採択地区の公表は、そのようにいたします。

以上で全ての審議を終了いたします。その他、何かありますでしょうか。

それでは、以上で議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

<事務局>

添田会長ありがとうございました。

それでは、事務局より要項にございます今後の予定について説明いたします。

各市町の教育長様には、本日の結果を、各市町教育委員会へ御報告をお願いいたします。今回、選定されました教科用図書一覧表の電子データを、作成後に各市町の事務局様に電子メールで送信いたします。

議決内容につきましては、7月26日金曜日までに、各市町教育委員会から議決をいただきますようお願い申し上げます。なお、議決が済みましたら、採択教科用図書一覧表を事務担当者にお渡ししたいと存じます。

各市町の議決の報告でございますが、同じく 26 日金曜日までに、文書で報告願います。なお、文書による報告が遅れる場合は、城里町教育委員会学校教育グループ宛に、議決した旨、F A X にて連絡をいただければ幸いです。

最後に本日の資料ですが、教育長様のみ各市町教育委員会保管用として、お帰りの際にお渡しいたしますのでよろしくお願いいたします。説明は以上となります。

それでは、「閉会のことば」を 本選定協議会副会長 小美玉市教育委員会教育長 羽鳥 文雄 様お願いいたします。

(小美玉市教育委員会 羽鳥教育長)

～閉会のことば～

閉会時間 午後 5 時00分